

2019年4月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第172号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*《もくじ》\*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆2019年度NP0法人東海地域生物系先端技術研究会総会および
- 第1回セミナー（予定）
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆食育シンポジウム (NP0法人日本食育協会)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度A-STEP機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同フェーズ シーズ育成タイプ (JST)
- ☆2019年度e-ASIA共同研究プログラム「材料（ナノテクノロジー）」
- 及び「農業（食料）」分野共同研究課題募集 (JST)
- ☆2019年度企業主導フェーズ NexTEP-Bタイプ (JST)
- ☆2019年度企業主導フェーズ NexTEP-Aタイプ (JST)
- ☆2019年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
- ☆2019年度NEDO先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆1◆ 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NP0法人東海地域生物系先端技術研究会通常総会および第1回セミナー（予定）

NP0法人東海地域生物系先端技術研究会は、通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催する予定です。

【開催日時】2019年6月19日（水）14:30～15:30 総会  
15:45～16:45 第1回セミナー

【開催場所】ウインクあいち（愛知県産業労働センター）13階 1303号室  
アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】

講演： 演題：未定

講師：瀬戸内ジャムズガーデン代表取締役 松嶋 匡史 氏

【情報交流会】ウインクあいち13階 1303号室

#### ◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食育シンポジウム (NP0法人日本食育協会)

【開催日時】2019年4月29日（月）12:30～16:00（予定）

【開催場所】 ウィルあいち （名古屋市東区上堅杉町 1 番地）

【内容】

講演 1 「人生 100 年時代」 琉球大学医学研究科教授 益崎裕章 氏

講演 2 「スポーツと食習慣」

国立スポーツ科学センター先任研究員 亀井明子 氏

パネルディスカッション

【案内チラシ】 <http://www.syokuiku-kyoukai.jp/nagoya2019.pdf>

【参加費用】 一般の方 1500 円、日本食育協会会員 無料。

【定員】 800 名、定員になり次第、締切りとなります。

【申込方法】 上記の「案内チラシ」にあります参加申込書にご記入の上、事務局宛てに FAX にてお申込み下さい。

### ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

### ◆ 4 ◆ 2019 年度競争的研究資金等について

☆2019 年度 A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

公募要領：[https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou\\_koubo.pdf](https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou_koubo.pdf)

分野等：大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援対象とする（医療分野を除く）。コーディネーター等の橋渡し人材が企業と大学等とを調整の上、三者連名で大学等の研究代表者が代表して提案書を作成し応募する。

研究開発期間及び研究開発費：1 年、上限 300 万円

公募期間：第 1 回目：2019 年 3 月 14 日～5 月 14 日正午

第 2 回目：2019 年 5 月 23 日～7 月 23 日正午

注意：同一研究代表者が、(1)A-STEP 機能検証フェーズに複数課題を応募不可。(2)試験研究タイプと実証研究タイプの両方への応募不可。試験研究タイプの第 1 回と第 2 回の両方への応募不可。(3)1 回の公募期間中に複数への応募不可。

☆2019 年度 産学共同フェーズ シーズ育成タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-seeds.html>

分野等：大学等の研究成果に基づく技術シーズの可能性検証及び実用性検証を行い、中核技術の構築を目指す産学共同の研究開発企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が支援対象。

研究開発期間：2～6 年

研究開発費：マッチングファンド方式、JST 支出分 2,000 万円～5 億円（企業が支出する研究開発費を上限とする）

公募期間：第1回目：2019年3月11日～5月13日正午

採択予定件数：20 課題程度

☆2019 年度 e-ASIA 共同研究プログラム「材料（ナノテクノロジー）」及び「農業（食料）」分野 共同研究課題募集 (JST)

[http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce\\_easia\\_jrp\\_8th.html](http://www.jst.go.jp/inter/program/announce/announce_easia_jrp_8th.html)

分野等：

1. 材料（ナノテクノロジー）分野：革新的材料
2. 農業（食料）分野：アジアの動物遺伝資源の保存、改良と活用

公募期間：2019年1月18日～5月14日

☆2019 年度 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-b.html>

分野等：研究開発型中小企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長5年

研究開発費：マッチングファンド方式、実施料納付、原則～3億円

公募期間：2019年3月11日～6月10日正午

☆2019 年度 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長10年

研究開発費：実施料納付、原則1億円～15億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第1回目締切 2019年7月31日正午

☆2019 年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<http://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2019/190128mono.htm>

分野等：1. デザイン開発、2. 情報処理、3. 精密加工、4. 製造環境、5. 接合・実装、6. 立体造形、7. 表面処理、8. 機械制御、9. 複合・新機能材料、10. 材料製造プロセス、11. バイオ、12. 測定計測

公募期間：2019年1月28日～4月24日

☆2019 年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100193.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100193.html)

分野等：我が国の（1）省エネルギー、新エネルギー、CO2削減等のエネルギー・環境分野（エネルギー・環境新技術先導研究プログラム）及び（2）新産業創出に結びつく産業技術分野（新産業創出新技術先導研究プログラム）の中長期的な課題を解決していくために必要となる技術シーズ、特に既存技術の延長とは異なる、2030年を目途とした持続可能なエネルギー供給の実現や、新産業創出による産業競争力の向上に有望な技術の原石を発掘し、将来の国家プロジェクト等に繋げていく。

公募期間：2019年3月1日～5月7日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」:

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

### ☆花き関係

#### ○「青いキク」が誕生

キクは日本の切り花類の出荷量の約 40% (平成 27 年度)、出荷額の約 30% (平成 26 年度) を占める花き産業にとって最も重要な品目となっていますが、青系の花色の品種は無く、その開発が望まれていました。国立研究開発法人農研機構とサントリーグローバルイノベーションセンター(株)は、共同してその開発を行いました。その結果、青紫色の花を咲かせるカンパニュラの色素遺伝子と、青いチョウマメの色素遺伝子を遺伝子組換えによって導入したキクで青色の花びらを持つタイプが開発されました。

しかし、これを市販するためには、野生種のキクとの交雑による生物多様性影響評価をクリアする必要があります。今後、この生物多様性影響リスクを低減させるための研究開発を行うこととしていますので、市販までにはまだ時間がかかりそうです。

・農研機構 HP: 研究成果

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nivfs/076531.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/076531.html)

・農林水産技術会議 HP: 2017 年農業技術 10 大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/10topics.htm>

### ☆病虫害関係

#### ○抵抗性害虫の出現を遅延させるための殺虫剤施用戦略

新規農薬を開発するためのコストは年々増加し、10 年以上の歳月と 250 億円から 300 億円の経費がかかるとされています (農薬工業会)。そして、防除効果が高いということで、同一農薬を使用し続けると直ちに抵抗性の害虫が出現してしまいます。そのため、有効な殺虫剤をより長く使い続けられるような使用法に関する技術開発が求められています。そこで、農研機構、スウェーデン及び米国の大学が共同して殺虫剤施用戦略についての研究開発を行いました。その結果、殺虫剤抵抗性農業害虫の出現をできるだけ抑えるためには、作用機作の異なる複数の有効殺虫剤があった場合に、それらを「同一世代内に施用」した時と、「同一世代内」は単一の殺虫剤を施用し、「世代間」では異なる殺虫剤を施用する方法とを様々な条件を設定してシミュレーションした結果、例えば、チョウ目害虫やコウチュウ目害虫では殺虫剤が非浸透移行性タイプである場合には、「世代内施用」の方が抵抗性の発達遅延に効果的であるケースが多いことが判明しました。殺虫剤使用に当たって参考となる情報と思います。

・農林水産技術会議 HP: 2018 年農業技術 10 大ニュース

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181221.html>

・農研機構 HP: 研究成果

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/niaes/078254.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niaes/078254.html)

### ☆水産関係

## ○瀬戸内海におけるアサリ資源増加に向けた取り組み

瀬戸内海は、かつては国内有数のアサリ産地でしたが、現在は最盛期の1%以下に落ち込んでいます。減少した要因は、乱獲、沿岸部の埋め立て、温暖化や貧栄養化などが複合的に作用したと考えられています。これまでに様々な取組が行われてきましたが生産量を回復させるまでに至っていません。現在の取組みとしては、(1)アサリ浮遊幼生を他種と判別する技術を用いたアサリ幼生の分布調査、(2)国立研究開発法人産業技術総合研究所と共同で、海流や潮流、河川流量などのデータを基に、流況シミュレーションモデルを作成し、浮遊幼生の移送経路を推定し、6月と11月の2回産卵される卵や幼生の分散範囲を明らかにし、アサリ漁場やアサリ養殖場所へ浮遊幼生が効果的に供給されるように母貝集団を形成すべき場所を決めています。浮遊幼生が定着し、稚貝になる場所に被覆網を敷設して保護管理することにより、海域のアサリ資源量が増えていくことが期待されます。

・国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所 第15回成果発表会  
<http://www.fra.affrc.go.jp/topics/20180216/04.pdf>

.....

## 編集後記

4月1日に新元号「令和」が発表されました。そして、平成最後の春となり、満開の桜を十分に味わうことができました。また新たな事業年度が始まるにあたって気を引き締めております。

さて、「多忙な人でも簡単にできる上手な休み方や、仕事をスムーズにこなす方法を伝授」と書いておられる、西多昌規（にしだ まさき）著「水曜日に『疲れた』とつぶやかない50の方法」（朝日新書：2012年5月30日発行）を読みました。著者は大学病院に勤務されている精神科医で、うつ病、睡眠障害を専門にされています。

医学の視点からも、「疲れ」は「うつ」や「不眠」と切っても切れない関係と述べています。本書では、月曜日から金曜日までの平日と、週末の休日とを分けて、疲れをなるべく貯めない気持ちの持ちようや、過ごし方の工夫が50にまとめられています。水曜日の章では、仕事と私生活との適切なバランスから労働時間を考える「ワークライフバランス」という考え方があり、労働時間の短縮だけが目的ではなく、作業の全般的な効率化や働いている人の健康度を高めることなどを目的として、週に1日は定時に帰宅を推奨している官公庁や企業が多くなってきていると述べられています。「ノー残業デー」「定時退社日」を水曜日に決めている組織が圧倒的に多いそうです。水曜日に、意図的に早く帰る曜日が設けてあるのには、効率と疲労という側面があり、水曜日をうまく活用することが、1週間の折り返し点を無事に通過できる鍵であるとしています。

ここで述べられているすべての内容が、すべての人にマッチするわけではありませんが、使えるエッセンスを、少しだけでもいいから頭に入れて、行動に取り入れるだけで充分と著者は述べています。

本書では運動習慣の効果についても述べられており、私もできるだけエレベーターやエスカレーターを使わないで歩くことなどを行い、日々の運動習慣をつけることを心掛けたいと思います。（中山）

=====《メールマガジンに関するお問い合わせは》=====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（\*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年5月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第173号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆2019年度 NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会総会および
- 第1回セミナー (6月19日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆食品安全セミナー (5月30日)
- ☆名城大学農学部公開講座 (6月8日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度 A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)
- ☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ (JST)
- ☆2019年度 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ (JST)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆1◆ 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 通常総会および第1回セミナー

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会は、通常総会と第1回セミナーを下記の通り開催します。

【開催日時】 2019年6月19日（水） 14:30～15:30 総会  
15:45～16:45 第1回セミナー

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター）13階 1303号室  
（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第1回セミナー】講演

演題：「地元産農産物を利用したジャムの製造・販売による地域活性化」

講師：株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役 松嶋匡史 氏

【情報交流会】 ウィンクあいち13階 1303号室

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食品安全セミナー

(東海農政局)

【開催日時】5月30日(木) 13時30分～16時00分

【開催場所】名古屋能楽堂 会議室(愛知県名古屋市中区三の丸 1-1-1)

会場案内図は下記プレスリリースの添付資料を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【プレスリリース】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190423.html>

【内容】

第1部 13時30分～14時05分

「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 職員

第2部 14時20分～15時50分

「食中毒を防ぐために」

中部大学 応用生物学部 食品栄養科学科 教授 森山 龍一 氏

【参加者募集】募集人数 70名(申込者多数により御参加いただけない場合のみ、連絡)

対象者：一般消費者、参加費無料

【申込み】申込期限 5月28日(火) 17:00

参加申込書は上記プレスリリースのURLから取り出し、必要事項をご記入の上  
FAX 又はインターネットでお申し込み下さい。

.....

☆名城大学農学部公開講座「食と農の安全を考える(第4回)」

【開催日時】6月8日(土) 13時～15時30分

【開催場所】名城大学天白キャンパス 共通講義棟北 N-201 講義室

(名古屋市天白区塩釜ロー丁目 501 番地)

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【内容】講演テーマ：安全・安心と地産・地消

講演1 講師 (公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会

総務局 持続可能性部 持続可能性事業課長 日比野佑亮 氏

講演2 講師 株式会社 恵那川上屋 代表取締役 鎌田慎悟 氏

【参加】参加費無料、定員200名(先着順)、どなたでも参加できます。

事前申し込み不要。直接会場にお越しください。

【お問い合わせ】 農学部事務室 電話：052-838-2054

(受付時間：9時～17時、土日祝祭日を除く)

### ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

### ◆ 4 ◆ 2019 年度競争的研究資金等について

☆2019 年度 A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

公募要領：[https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou\\_koubo.pdf](https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou_koubo.pdf)

分野等：大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援対象とする（医療分野を除く）。コーディネーター等の橋渡し人材が企業と大学等とを調整の上、三者連名で大学等の研究代表者が代表して提案書を作成し応募する。

研究開発期間及び研究開発費：1 年、上限 300 万円

公募期間：第 2 回目：2019 年 5 月 23 日～7 月 23 日正午

注意：同一研究代表者が、(1)A-STEP 機能検証フェーズへの複数課題の応募不可。

(2)試験研究タイプと実証研究タイプの両方への応募不可。(3)試験研究タイプの第 1 回と第 2 回の両方への応募不可。

☆2019 年度 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ (JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-b.html>

分野等：研究開発型中小企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 5 年

研究開発費：マッチングファンド方式、実施料納付、原則～3 億円

公募期間：2019 年 3 月 11 日～6 月 10 日正午

☆2019 年度 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

(JST)

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：実施料納付、原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 1 回目締切 2019 年 7 月 31 日正午

.....

< 民間の競争的研究資金 >

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」:

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆米・麦・大豆関係

○多収で倒伏や病害虫に強く飼料用米に適した水稻新品種「みなみちから」を育成

農研機構は、関東以西の地域で栽培が可能で、多収で倒れにくく、病害虫に強い水稻新品種「みなちから」を育成しました。温暖地や暖地における飼料用米の安定生産へ向けて、普及が期待されます。

・農林水産技術会議事務局 HP:「2018 年農業技術 10 大ニュース」の選定について

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/181221.html>

・農林水産技術会議事務局 HP: 多収で倒伏や病害虫に強く飼料用米に適した水稻新品種「みなみちから」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/181221-12.pdf>

・農研機構 HP: プレスリリース (研究成果)

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/warc/079721.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/079721.html)

☆花き関係

○頭上散水によるキクの高温対策技術を開発

愛知県農業総合試験場は、2018 年の 10 大ニュースを発表しています。今回はこの中から標記の技術をご紹介します。キク栽培では、夏季の高温による開花遅延や生育不良が多発しています。高温対策にはヒートポンプによる冷却やミストによる気化冷却が有効

ですが、いずれも導入コストが高く、キクでの普及が妨げられています。そこで、キクで広く普及している頭上灌水装置を気化冷却に利用することを試みました。すなわち、夏季の8～15時の間に頭上灌水装置を用いて少量多頻度で散水処理をした結果、ハウス内温度は4～5℃低下し、キクの開花遅延が抑制され、草丈が伸び、切り花も重くなりました。また、キクの葉の黄斑点の発生が大幅に抑制されました。

・愛知県農業総合試験場 HP：2018 年愛知県農業総合試験場の 10 大成果

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/284084.pdf>

#### ☆果樹関係

○カキの樹幹害虫対策はヒメコスカシバを中心に体系的に取り組ましよう

カキの樹幹害虫は、ヒメコスカシバとフタモンマダラメイガの2種とされています。これら2種の発生時期や加害時期等不明の点が多く、的確な防除を行うことが困難でした。そこで、岐阜県農業技術センターでは、両種の発生生態、被害の実態、交信攪乱法や殺虫剤散布による防除効果を検討しました。その結果、被害の大半はヒメコスカシバによるものであり、フタモンマダラメイガの幼虫は寄生蜂により大半が死亡することが分かりました。防除法としては、交信攪乱剤、高濃度少量散布、通常の殺虫剤散布を組み合わせた体系防除を行うことで、被害を大幅に抑制できることが分かりました。研究成果をまとめ、樹幹害虫対策の手引きも作成しました。

・岐阜県農業技術センターHP：平成 29 年度研究成果

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

○ウンシュウミカンの隔年結果是正のための早期摘蕾と省力的な水噴射ノズルの効果

三重県農業研究所では、温州ミカンの隔年結果を効率的に是正し、摘蕾適期の延長と作業の省力化を図るために、早期摘蕾（発芽後間もない蕾が小さい頃）が効果的であることを明らかにするとともに、水噴射ノズルを使った省力的な作業方法も開発しました。

・三重県農業研究所 HP：平成 29 年度三重農研 研究成果情報

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000830495.pdf>

#### ☆畜産関係

○国産モミ米を配合した養鶏飼料「こめっ娘（こ）」シリーズの開発

昭和産業グループは食糧自給率向上への貢献を目指して飼料用米事業に取り組んできました。当初は玄米を成鶏用飼料に配合していましたが、脱穀後のモミ殻処理が課題となりました。そこで、モミ米のままでの鶏の飼料化に取り組みましたが、粒が大きくヒナは食

べることが出来ませんでした。このため、モミ米を粉碎して形成加工（ペレットクランブル）する技術を開発し、飼料化に成功しました。この飼料をヒナに与えることにより、ヒナの発育を良好にし、腸内細菌の改善、筋胃増大等の効果が認められました。これにより、ヒナから採卵鶏まで一貫してモミ米配合飼料を給与することが可能となりました。本技術の開発により、当該社は平成26年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰において、農林水産技術会議会長賞民間企業部門賞を受賞されました。

・農林水産技術会議 HP：

<http://www.affrc.maff.go.jp/koho/message/2015/message20150315.htm>

☆森林・林産関係

○キノコバエ対策

キノコバエ類による被害としては、幼虫が菌糸や子実体を食害することによる収量の低下と幼虫が付着した子実体の流通による異物混入が大きな問題となっています。岐阜県森林研究所は、現在行われている光により誘引捕殺する方法、粘着シートで捕殺する方法では十分な効果が得られないこと、菌床栽培で使える農薬が無いことから、廃菌床の水没法及び青色光による幼虫の殺虫法についての研究を行い、実用化に有望な結果が得られています。

・岐阜県森林研究所 HP：菌床シイタケ栽培の敵 キノコバエを減らす方法

<http://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/rd/shigen/05101gr.html>

・岐阜県森林研究所 HP：青色光でシイタケの害虫を防除する

<http://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/rd/kankyau/mori190101.html>

.....

編集後記

5月1日から改元により平成から令和に変わるとともに、今年のゴールデンウィークは、10連休となりました。帰省、レジャー、自己研鑽、休養にと有意義に過ごされたいと思います。

当研究会におきましては、平成3年に任意団体として設立されて以来、平成の時代と共に歩んできました。令和の時代においても、産学官連携による農林水産・食品産業における新技術の研究開発の促進支援と地域活性化を目指して一層の活動強化を図って参りますので、引き続き、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

ところで、最近読んだ本として、畑村洋太郎著「技術大国幻想の終わり～これが日本の生きる道～」(2015年初版発行；講談社現代新書)があります。畑村氏の著書については、本メルマガの2015年11月号で「失敗学のすすめ」講談社文庫(2005年)をご紹介しました。著者は、政府の東京電力福島原子力発電所に関する事故調査・検証委員会委員長を務めるなど、日本においてリスク管理について深い見識を有する識者の一人です。本書で

は、今後、日本が直面する大きな課題、エネルギーと食糧の確保、少子高齢化、巨大地震と地球温暖化、貿易立国モデルの終焉と産業停滞の原因等について分析しています。今後、日本はこれまでの成功体験から脱却し、「価値」創造を真剣に考えていくこと、常に変化していくことを前提に市場を作っていく戦略を考えていくこと、広いアジアを中心、異文化社会が求める商品とはどんなものを現地で把握し、それを作り売っていく姿勢の重要性、技術開発を単に高機能化ではなく現地社会が求める方向に沿って行うこと、そのかじ取りができる企業トップの能力の重要性など、示唆に富む事柄が多岐にわたって述べられています。本書は、今後の日本及び企業の進むべき道を考えていく上で、参考となり、ヒントを与えてくれるものと思われます。（松井正春 記）

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年6月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第174号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆2019年度 NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会総会および
- 第1回セミナー (6月19日)
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
- ☆東海地域における農林水産物・食品のGFP輸出促進セミナー (6月25日)
- ☆食品安全セミナー (6月27日)
- ☆しげんさいせいネット 17期 第1回セミナー (6月21日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度官民連携新技術研究開発事業 (第2回公募) (農林水産省)
- ☆2019年度CO<sub>2</sub>排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 (二次公募)
- (環境省)
- ☆2019年度 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
- 独創的な人向け特別枠「異能 vation」プログラム (総務省)
- ☆2019年度食品健康影響評価技術研究 (3次公募) (内閣府)
- ☆2019年度新規委託研究 (第二弾) (国立研究開発法人情報通信研究機構)
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- A-STEP 機能検証フェーズ 実証研究タイプ
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆2019年度未来社会創造事業 (探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)
- ☆戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発) (JST)
- ☆2019年度研究開発型ベンチャー支援事業/
- 企業間連携スタートアップの事業化支援 (NEDO)

○ ☆2019 年度 NEDO 先導研究プログラム/未踏チャレンジ 2050 (NEDO)

○ ☆民間の競争的研究資金

○ 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

## ◆ 1 ◆ 2019 年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 通常総会および第 1 回セミナー

当研究会は、通常総会と第 1 回セミナーを下記の通り開催しますので、ご案内致します。

【開催日時】 2019 年 6 月 19 日 (水) 14:30～15:30 総会

15:45～16:45 第 1 回セミナー

【開催場所】 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 13 階 1303 号室

(名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38)

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【第 1 回セミナー】講演

演題:「地元農産物を利用したジャムの製造・販売による地域活性化」

講師:株式会社瀬戸内ジャムズガーデン 代表取締役 松嶋匡史 氏

【第 1 回セミナー主催】農林水産省農林水産技術会議 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【情報交流会】ウィンクあいち 13 階 1303 号室

【申込み】先着 40 名 参加費無料。申込締切日: 6 月 12 日 (水)

参加申込みは、下記の URL から「参加申込書」をダウンロードし、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

URL: <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2524>

FAX: 052-789-4586

E-Mail: bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

## ◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆東海地域における農林水産物・食品の GFP 輸出促進セミナー (東海農政局)

【開催日時】 2019 年 6 月 25 日 (火) 13 時 30 分～17 時 (受付 13 時)

【開催場所】 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 18 階セミナールーム

(愛知県名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38)

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関等を利用して下さい。

【内容】

第1部 農林水産物・食品の輸出拡大について

- ・JFOODOによる重点的・戦略的プロモーションについて

JFOODO（日本食品海外プロモーションセンター） 事務局長 大泉裕樹 氏

- ・GFP（農林水産物・食品輸出プロジェクト）の取組について

農林水産省食料産業局輸出促進課 輸出プロジェクト室長 小坂伸行 氏

第2部 輸出に取り組む事業者からの情報提供について

- ・金印株式会社 代表取締役会長 小林一光 氏
- ・株式会社萬来トレーディングコンサルタント 代表取締役 南川 勤 氏
- ・株式会社平松食品 代表取締役 平松賢介 氏

【開催案内】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/renkei/190528.html>

【交流会】 名刺交換会とのことです。

【申込み】 講演会の参加費無料。定員100名（申込者多数によりご参加いただけない場合には連絡があります）。申込締切は令和元年6月21日（金曜日）17時。

下記URLのインターネット又はファックスでお申込み下さい。

送信先 FAX：052-219-2670 E-mail：

参加申込フォームは下記のURLからダウンロードし、必要事項を入力の上、お申し込みください。

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/tokai/form/renkei/20190524.html>

【対象者】 農林水産物・食品の輸出に取り組む農林漁業者・食品事業者、輸出に関心のある農林漁業者・食品事業者、地域商社、物流業者、地域金融機関、行政機関等

【主催】 東海農政局

【お問い合わせ先】 東海農政局 経営・事業支援部地域連携課

担当者：安藤、岩倉、浅井、池淵

代表：052-201-7271（内線2713）

ダイヤルイン：052-223-4619 FAX 番号：052-219-2670

.....

☆食品安全セミナー

（東海農政局）

【開催日時】 6月27日（水）13時30分～16時

【開催場所】 東海農政局 第1会議室（1階）（愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2）

会場案内図は下記プレスリリースの添付資料を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【プレスリリース】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190527.html>

【主催】 東海農政局

【内容】

第1部 13時30分～

「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 消費・安全調整官 田鎖 武 氏

第2部 14時50分～

「農薬の安全性について ～農薬の安全確保と適正使用について～」

東海農政局消費・安全部 安全管理課長 春日井 健 氏

【参加者募集】 募集人数 40 名（定員になり次第、募集が締め切られます）

参加費：無料

【申込み】 申込期限 6月25日（月）17時まで

参加申込書は上記プレスリリースの URL から取り出し、必要事項をご記入の上 FAX 又はインターネットでお申し込み下さい。

.....

☆しげんさいせいネット 17 期 第1回セミナー

本セミナーでは、食品リサイクル法の見直し基本方針に関連して、その内容を把握し、食品リサイクル手法のトレンドとその変遷について理解を深めます。

【開催日時】 2019年6月21日（金）14時～17時

【開催場所】 名古屋クラウンホテル 6階 「虹」

（愛知県名古屋市中区栄1-8-33）

【講演】

1. 「食品リサイクル法の見直し基本方針（案）について」

環境省 中部地方環境事務所 資源循環課 水谷宏忠 氏

（内容：今回の基本方針見直しについての解説）

2. 「食品リサイクル制度に基づく再生利用のトレンドとその変遷」

日報ビジネス株式会社 環境編集部 新倉 充 氏

（内容：食品リサイクル法の成立前から現在に至る食品リサイクル手法のトレンドと、その変遷を追い、再生利用の現場が抱えてきた様々な課題と、各課題に対応した制度見直しの歴史を振り返ることで各食品リサイクル手法の今後を展望する）

【申込み】 参加費：会員 無料、会員外 1,000 円（資料作成等の代金）

参加申し込み：6月10日（月）までに申込書をファックス又は電子メールで書き宛に送付して下さい。

【問合せ先／申込先】 しげんさいせいネット事務局 FAX：052-703-2119

E-mail: shigensaiseinet@tcoop.or.jp

\_\_\_\_\_

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019 年度競争的研究資金等について

☆2019 年度官民連携新技術研究開発事業（第 2 回公募） 農林水産省（農村振興局）

[http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/190524\\_1.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/190524_1.html)

分野等：

- 1.農地の大区画化・汎用化に資する技術
- 2.農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
- 3.土地改良施設の耐震強化等に資する技術
- 4.小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
- 5.農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：2019 年 5 月 24 日～7 月 10 日

.....

☆2019 年度 CO<sub>2</sub> 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業（二次公募）（環境省）

[http://www.env.go.jp/earth/earth/ondanka/biz\\_local/31\\_06/2019co2\\_1.html](http://www.env.go.jp/earth/earth/ondanka/biz_local/31_06/2019co2_1.html)

分野等：

- 1.交通低炭素化技術開発分野
- 2.建築物等低炭素化技術開発分野
- 3.再生可能エネルギー低炭素化技術開発分野
- 4.バイオマス・循環資源低炭素化技術開発分野
- 5.社会システム革新低炭素化技術開発分野

公募期間：2019 年 5 月 23 日～6 月 19 日

.....

☆2019 年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）独創的な人向け特別枠

異能 vation」プログラム

（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000280.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000280.html)

分野等：ICT 分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる可能性がある奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援する。

公募期間：2019 年 6 月 3 日～7 月 31 日

.....

☆2019 年度食品健康影響評価技術研究（3 次公募）（内閣府（食品安全委員会））

[http://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu\\_koubo/kenkyu\\_31\\_koubo\\_sanji.html](http://www.fsc.go.jp/chousa/kenkyu/kenkyu_koubo/kenkyu_31_koubo_sanji.html)

分野等：

1. ノロウイルスによる健康被害実態及び食品寄与率の推計に関する研究
2. アニサキス食中毒におけるリスク評価及びリスク低減策に関する研究
3. ベンチマークドーズ等の算出に用いるソフトウェアに関する研究

公募期間：2019 年 6 月 4 日～25 日

.....

☆2019 年度新規委託研究（第二弾）（国立研究開発法人情報通信研究機構）

<https://www.nict.go.jp/press/2019/05/13-1.html>

分野等：データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発等

公募期間：2019 年 5 月 13 日～6 月 10 日

.....

☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム A-STEP（JST）

機能検証フェーズ 試験研究タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

公募要領：[https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou\\_koubo.pdf](https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou_koubo.pdf)

分野等：大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するかどうか確認するための試験研究を支援対象とする（医療分野を除く）。コーディネーター等の橋渡し人材が企業と大学等とを調整の上、三者連名で大学等の研究代表者が代表して提案書を作成し応募する。

研究開発期間及び研究開発費：1 年、上限 300 万円

公募期間：第 2 回目：2019 年 5 月 23 日～7 月 23 日正午

注意：同一研究代表者が、(1)A-STEP 機能検証フェーズへの複数課題の応募不可。

(2)試験研究タイプと実証研究タイプの両方への応募不可。(3)試験研究タイプの第 1 回と第 2 回の両方への応募不可。

.....

☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム A-STEP（JST）

機能検証フェーズ：実証研究タイプ

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が保有

する研究成果、知的財産の活用のための試験研究や実証研究を支援する。

公募期間：2019年5月23日～7月23日

.....  
☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-b.html>

分野等：研究開発型中小企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長5年

研究開発費：マッチングファンド方式、実施料納付、原則～3億円

公募期間：2019年3月11日～6月10日正午

.....  
☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長10年

研究開発費：実施料納付、原則1億円～15億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第1回目締切 2019年7月31日正午

.....  
☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：2019年3月29日～7月31日（第1回）、11月29日（第2回）、  
2020年3月31日（第3回）

.....  
☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後10年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：2019年3月29日～7月31日（第1回）、11月29日（第2回）、  
2020年3月31日（第3回）

.....  
☆2019 年度未来社会創造事業（探索加速型・大規模プロジェクト型）（JST）

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/open-call/research/r01/index.html>

分野等：

1.探索加速型（「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域、「共通基盤」領域）

2.大規模プロジェクト型

公募期間：2019 年 5 月 15 日～7 月 24 日

.....  
☆2019 年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）（JST）

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム

[https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/current/proposal\\_2019.html](https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/current/proposal_2019.html)

分野等：SDGs の達成に向けて目指すべき姿（ビジョン）を描き、国内の地域における社会課題を特定し、その解決策を実証する。さらに、実証された解決策を他地域に展開するための事業計画を策定する。

公募期間：2019 年 6 月 3 日～7 月 29 日

.....  
☆2019 年度研究開発型ベンチャー支援事業／企業間連携スタートアップの事業化支援（NEDO）

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100206.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100206.html)

分野等：事業会社と連携して事業開発を行う研究開発型ベンチャーを支援する。

公募期間：2019 年 5 月 15 日～6 月 25 日

.....  
☆2019 年度 NEDO 先導研究プログラム/未踏チャレンジ 2050（NEDO）

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100208.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100208.html)

分野等：2050 年頃を見据えた温室効果ガスの抜本的な排出削減を実現する技術・システム、及びその技術・システムにおいて解決すべき課題を明確にしつつ、その課題を解決できる革新的な低炭素技術シーズについて、先導研究として実施する。本公募の対象とする研究開発テーマは、5 つの研究分野(1)次世代パワーエレクトロニクス、(2)環境改善志向次世代センシング、(3)超電導材料開発及び応用、(4)軽量・耐熱の極限を目指す未来材料、(5)CO2 有効活用「Net Zero Emission あるいは低濃度 CO2 直接資源化」のいずれかに該当する研究開発内容とする。

公募期間：2019 年 5 月 24 日～7 月 12 日

.....

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください。

「農林水産・食品分野の公募情報」:

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆米・麦・大豆・芋関係

○濃い紫色で食味の良い紫サツマイモ品種「ふくむらさき」

生食用サツマイモについては、多様な品種がありますが、農研機構は、食味の良い紫サツマイモ新品種「ふくむらさき」を育成しました。「ふくむらさき」は、現在の紫サツマイモの主力品種である「パープルスイートロード」よりも紫色が濃く、食味も優れています。蒸し暑いもや焼きいもにした場合の糖度は、「べにはるか」並みに高く、しっとりとした食感をしています。関東地方の青果用サツマイモ産地を中心に普及が予定されています。2019年春より、民間種苗会社などから苗が供給されています。

・農研機構 プレスリリース:

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/karc/120215.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/120215.html)

☆果樹関係

○小型で簡便な花蕾採取機を開発

果樹の授粉では、雌雄異株の樹種（キュウイなど）や自家不和合性で異なる品種の花粉が必要な樹種（スモモ、ナシなど）では、採花して花粉を集める必要があります。しかし、従来の人手による採花作業は、機械化されておらず人海戦術で行う必要がありました。農研機構果樹茶業研究部門では、花蕾採取機を開発し、従来の方法と作業時間を比較すると、スモモでは約7割、ナシでは約8割削減できました。今後、実用規模での試験を行い、2020年度以降の実用化が目指されています。

・農研機構 プレスリリース:

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/iam/130443.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/iam/130443.html)

☆森林・林産関係

○シイタケ害虫の新たな天敵を発見～菌床シイタケを脅かすキノコバエを蜂が退治する～

菌床シイタケ栽培において、キノコバエが大発生し被害を与えることがあり、しかも有効な防除法が無いので問題となっています。国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林

総合研究所では、菌床シイタケの害虫であるナガマドキノコバエ類の幼虫を殺す寄生蜂を発見し、この寄生蜂がナガマドキノコバエ類の増殖抑制に高い効果を有することを明らかにしました。今後、自然環境に生息するこの寄生蜂を天敵として利用するための技術開発が進展することを期待しています。

・国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 プレスリリース：

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/press/2019/20190514/documents/20190514press.pdf>

.....

#### 編集後記

6月に入り、盛夏のように暑い日もありましたが、朝夕はさわやかな風を感じることもしばしばありました。新緑の田園風景を眺めて、晴れやかな気持ちで散歩なども楽しむことができました。梅雨入りが既に発表されていますが、雨の日も気分良く過ごしたいものです。

さて、木下 斉(あきら)著「稼ぐまちが地方を変える ～誰も言わなかった10の鉄則～」(NHK出版新書：2015年5月10日第1刷発行)を読みました。著者の木下氏は東京都生まれで、まちビジネス投資家・事業家で、高校一年からの十七年間で経験した「まちづくり」に関する取り組みの実体験と、その実体験にもとづく、「稼ぐための教訓」について書かれています。著者が地域で事業を行うときはいつも、「まちを一つの会社にみたてて経営する」ことを基本とされており、資金調達し、投資し、回収して、利益をあげ、それを元手としてさらに新しい事業に再投資するというサイクルをまちの経営で徹底することが重要と述べておられます。まちづくりを成功させる「10の鉄則」を次のように述べられています。(1)小さく始めよ。(2)補助金を当てにするな。(3)「一蓮托生」のパートナーを見つけよう。(4)「全員の合意」は必要ない。(5)「先回り営業」で確実に回収。(6)「利益率」にとことんこだわれ。(7)「稼ぎ」を流出させるな。(8)「撤退ライン」は最初に決めておけ。(9)最初から専従者を雇うな。(10)「お金」のルールは厳格に。さらに、現場で取組んでいる実践者が自らいろいろな提言をしていくことが重要と述べられており、地域活性化に向けて大いに参考となると思います。(中山博導 CD 記)

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年7月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第175号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
  - ☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (9月30日)
  - ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 7月度研究会 (7月18日)
  - ☆東海農政局 食品安全セミナー (7月25日)
  - ☆名古屋大学協力会 講演会 (9月20日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆2019年度 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
  - 独創的な人向け特別枠「異能 vation」プログラム (総務省)
  - ☆2019年度新規委託研究 (第二弾) (国立研究開発法人情報通信研究機構)
  - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
    - A-STEP 機能検証フェーズ 試験研究タイプ
  - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
    - A-STEP 機能検証フェーズ 実証研究タイプ
  - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
    - 企業主導フェーズ NexTEP-B タイプ
  - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
    - 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
  - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
    - NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
  - ☆2019年度未来社会創造事業 (探索加速型・大規模プロジェクト型) (JST)
  - ☆2019年度戦略的創造研究推進事業 (社会技術研究開発) (JST)
  - ☆民間の競争的研究資金
  - ☆民間等の資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

---

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー（予定）

当研究会は、第2回セミナーを下記の通り開催しますので、ご案内致します。

【開催日時】 2019年9月30日（月） 13：30～17：00

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 12階 1206号室&1207号室  
（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【内容】 会場ごとの講演数及び講演順は未定、演題は仮題です。

- ・食品部会

演題：交流電界ミニマムヒーティングプロセスによる食品の高品質殺菌

講師：植村邦彦 氏（農研機構 食品研究部門）

- ・作物部会

演題：食用サボテンの研究および産業利用における最近の展開

講師：堀部貴紀 氏（中部大学応用生物学部）

- ・畜産部会

演題：周年親子放牧による高収益繁殖経営

講師：山本嘉人 氏（農研機構 畜産研究部門）

- ・林産部会

演題：森林環境税・森林環境譲与税の活用による森林整備と研究展開

講師：中井毅尚 氏（三重大学大学院生物資源学研究科）

- ・水産部会

演題：沿岸域貧栄養化対策としての複合養殖技術の開発

講師：渡辺諭史 氏（水産研究・教育機構 増養殖研究所）

【主催】 農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【交流会】 ウィンクあいち 12階 1206号室 参加費有り

【申込み】 講演会は参加費無料。申込締切日：9月17日（火）

参加申込みは、後日、当研究会ホームページに申込書を掲載致しますので、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX：052-789-4586

E-Mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（＊を@に書き換えてください）

.....

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー（予定）

当研究会は、第3回セミナーを下記の通り開催する準備を進めていますので、ご案内致

します。

【開催日時】 2019年10月31日（木） 13:00～17:00

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 12階 1201号室

（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【内容】 全体タイトル「新品種育成を巡る状況と東海地域発の新品種紹介」

講演の個別内容

(1)品種の権利保護、種苗登録を巡る現状と課題について（1課題）

(2)野菜における DNA マーカー利用技術の進展について（1課題）

(3)東海地域の各県で育成された新品種の紹介について（3課題程度）

ポスター説明：東海地域発の新品種についてポスター展示を行います。

交流会でも新品種の紹介をする予定です。

【主催】 農林水産省農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【交流会】 ウィンクあいち 12階 1201号室 参加費有り

【申込み】 講演会は参加費無料。

参加申込みは、後日、当研究会のホームページに参加申込書が掲載されますので、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX：052-789-4586

E-Mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（＊を@に書き換えてください）

## ◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 7月度研究会

【開催日時】 2019年7月18日（木） 14:00～17:00

【開催場所】 名古屋市民活動推進センター

（名古屋市中区栄三丁目18-1）

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階 集会室

下記の「開催案内」の URL を開いて地図をご覧ください。

【内容】

講演 1：14:00～15:20

「化石資源 再生可能エネルギー」

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 佐藤之彦 氏

講演 2：15:30～17:00

「土壌を創生する ～食糧生産を根底から創り換える～」

国立研究開発法人 農研機構 野菜花き研究部門 篠原 信 氏

【開催案内】 中部異業種間リサイクルネットワーク協議会ホームページの「行事案内」を  
ご覧ください。 <https://www.crn2011.jp/>

【参加申込み】 定員 60 名、参加費 会員 無料、非会員 1,000 円（学生 500 円）

事前申し込み不要、当日受付

【懇親会】 講師を囲んで懇親会を実施。会費 3,000 円

中国料理 シルクロード上財津店 （名古屋市中区大津 1-11-6）

.....

☆食品安全セミナー

（東海農政局）

【開催日時】 2019年7月25日（木） 13：30分～15：30

【開催場所】 豊田市中心図書館（多目的ホール）

（愛知県豊田市西町 1-200 豊田参合館 6 階）

東海農政局 第1会議室（1 階）（愛知県名古屋市中区三の丸 1-2-2）

会場案内図は下記プレスリリースの添付資料を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【プレスリリース】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190627.html>

【主催】 東海農政局

【内容】

第1部 13：30～13：50

「食品安全と行政の取組 ～消費者の部屋の取組～」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課 職員

第2部 14：00～15：30

「食品の安全を守るための行政の取組」

消費者庁 消費者安全課 職員

【開催案内チラシ】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/190627-1.pdf>

【参加者募集】 募集人数 50 名

参加費：無料 対象：一般消費者

【申込み】 申込期限 7月23日（火） 17時まで

参加申込書は上記プレスリリースの URL にある申込様式に記入し、インターネットで送信、あるいは上記開催案内ちらしにある申込書に必要事項をご記入の上、FAX 又はインターネットでお申し込み下さい。

.....

☆名古屋大学協力会 講演会

「脱炭素社会構築に貢献する森林資源利用 ～イノベーション最新動向～」

【開催日時】 2019年9月20日（金） 14:00～17:00

【開催場所】 名古屋大学 ベンチャービジネスラボ（VBL）内 3階 ベンチャーホール  
会場地図 <http://www.>

【主催】 名古屋大学協力会

【プログラム】

講演1：「木質バイオファイナリーの現状と課題」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 福島和彦 氏

講演2：「森―街連携を構築する都市の木質化」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授 山崎真理子 氏

【個別相談会】 16:40～17:00

【お申込み・お問合せ】 名古屋大学協力会事務局

電話／ファックス：052-782-1811 E-mail：[kyouryokukai@aip.nagoya-u.ac.jp](mailto:kyouryokukai@aip.nagoya-u.ac.jp)

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、  
下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の  
URL は下記の通りです。 <http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019年度競争的研究資金等について

☆2019年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）独創的な人向け特別枠

異能vationプログラム

（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000280.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000280.html)

分野等：ICT分野において破壊的な地球規模の価値創造を生み出すために、大いなる  
可能性がある奇想天外でアンビシャスな技術課題への挑戦を支援する。

公募期間：2019年6月3日～7月31日

.....

☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム A-STEP

（JST）

機能検証フェーズ 試験研究タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

公募要領：[https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou\\_koubo.pdf](https://www.jst.go.jp/mp/file/h31kinou_koubo.pdf)

分野等：大学等のシーズが企業ニーズ（企業の抱える技術的課題）の解決に資するか  
どうか確認するための試験研究を支援対象とする（医療分野を除く）。コー  
ディネーター等の橋渡し人材が企業と大学等とを調整の上、三者連名で大学  
等の研究代表者が代表して提案書を作成し応募する。

研究開発期間及び研究開発費：1年、上限300万円

公募期間：第2回目：2019年5月23日～7月23日正午

注意：同一研究代表者が、(1)A-STEP機能検証フェーズへの複数課題の応募不可。

(2)試験研究タイプと実証研究タイプの両方への応募不可。(3)試験研究タイプ  
の第1回と第2回の両方への応募不可。

.....

☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム A-STEP (JST)

機能検証フェーズ：実証研究タイプ

<http://www.jst.go.jp/mp/koubo.html>

分野等：企業等の開発ニーズに基づき、技術移転の可能性が見込まれる大学等が保有  
する研究成果、知的財産の活用のための試験研究や実証研究を支援する。

公募期間：2019年5月23日～7月23日

.....

☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支  
援対象とする。

研究開発期間：原則最長10年

研究開発費：実施料納付、原則1億円～15億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不  
成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第1回目締切 2019年7月31日、11月29日（第2回）、  
2020年3月31日（第3回）

.....

☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大  
きい開発を支援する。

公募期間：2019年3月29日～7月31日（第1回）、11月29日（第2回）、  
2020年3月31日（第3回）

.....  
☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：2019 年 3 月 29 日～7 月 31 日（第 1 回）、11 月 29 日（第 2 回）、  
2020 年 3 月 31 日（第 3 回）

.....  
☆2019 年度未来社会創造事業（探索加速型・大規模プロジェクト型） (JST)

<http://www.jst.go.jp/mirai/jp/open-call/research/r01/index.html>

分野等：

1.探索加速型（「超スマート社会の実現」領域、「持続可能な社会の実現」領域、「世界一の安全・安心社会の実現」領域、「地球規模課題である低炭素社会の実現」領域、「共通基盤」領域）

2.大規模プロジェクト型

公募期間：2019 年 5 月 15 日～7 月 24 日

.....  
☆2019 年度戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発） (JST)

SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム

[https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/current/proposal\\_2019.html](https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/current/proposal_2019.html)

分野等：SDGs の達成に向けて目指すべき姿（ビジョン）を描き、国内の地域における社会課題を特定し、その解決策を実証する。さらに、実証された解決策を他地域に展開するための事業計画を策定する。

公募期間：2019 年 6 月 3 日～7 月 29 日

.....  
＜民間の競争的研究資金＞

当研究会のホームページに掲載した公募情報をご覧ください（後日掲載）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2508>

.....  
＜民間等の資金＞

☆2019 年度農林水産業みらいプロジェクト （一般社団法人農林水産業みらい基金）

<http://www.miraikikin.org/support2019.html>

分野等：以下の支援に取り組むことを通じて、農林水産業と食と地域のくらしの発展に貢献することを目的とする。

1. 農林水産業の持続的発展を支える担い手への支援
2. 農林水産業の収益力強化に向けた取組みへの支援
3. 農林水産業を軸とした地域活性化に向けた取組みへの支援

公募期間：2019 年 6 月 7 日～7 月 31 日

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

##### ☆食品機能性関係

##### ○医学的エビデンスのある骨粗鬆症対応商品「抗ロコモ緑茶」とその関連商品の開発

三重大学大学院生物資源学研究科は、三重県農業研究所、三重大学大学院医学系研究科と共同して、運動器の機能障害（ロコモティブシンドローム）をもたらす骨粗鬆症予防に有効な機能性成分を多く含む茶葉（「抗ロコモ茶」）を生産し、その商品化を図るための研究を行いました。その結果、また、抗骨粗鬆症に効果を示す茶葉成分は、ビタミン K とエピガロカテキンガレートであり、マウスの骨密度低下抑制には 0.03%の茶粉末添加が必要となることが明らかになりました。茶栽培において遮光条件を最適化することにより、ビタミン K とエピガロカテキンガレートの含有量を高める栽培法を開発しました。さらに、

茶葉を粒径 20  $\mu$  m 以下の微粉末にすることで生体利用率（腸管吸収率）を大幅に高める加

工法が開発されました。ヒト試験において 1 日当たり抗ロコモ茶 3.66g を 4 週間摂取したと

ころ、骨代謝関連マーカーに変化は見られませんでした。骨粗鬆症の改善に有効とされる血中のビタミン K 濃度が有意に増加しました。

・農林水産技術会議事務局 HP：研究紹介 2018

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public\\_offering/agri\\_food/2018/27028c.html](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27028c.html)

##### ☆園芸関係（果樹）

##### ○温暖化に伴う、ブドウ着色不良の発生拡大を予測

「巨峰」などのブドウの黒色品種は、果実の着色が高温で阻害され、商品価値が低下します。日本のブドウ産地では、地球温暖化に伴い、着色不良の発生が増加し、大きな問題となっています。このため、農研機構では、地球温暖化が更に進んだ場合における着色不良発生地域を予測し、マップで示しました。さらに、施設栽培や温暖化対応品種などの適応策の導入によって発生地域を縮小できることがマップで示されました。東海地域におけるブドウ産地においても、地球温暖化を見据えた対応が必要です。

・農研機構 HP：研究成果

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nifts/131026.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/131026.html)

ブドウ着色不良発生頻度予測 詳細マップ

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/20190617\\_nifts\\_shousaima\\_p.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/20190617_nifts_shousaima_p.pdf)

☆病虫害・獣害関係

○登録農薬の少ない地域特産作物（マイナー作物）における天敵利用技術の確立

農研機構九州・沖縄農業研究センターは、西日本農業研究センター、鹿児島県農業開発総合センター及び宮崎大学と共同で、オクラ（春夏作物）とエンドウ（秋冬作物）をモデル作物として、露地栽培作物での天敵温存植物を利用した土着天敵の保護及び活動強化技術を開発するとともに、化学的農薬及び物理的防除を組み込んだ IPM 技術を開発し、マニュアルを作成しました。オクラでは、ソルゴーやバジル類などの複数の天敵温存植物を組み合わせ、アブラムシ類の発生を抑制し、農薬散布回数を 3 分の 1 に削減できました。エンドウでは、アザミウマ類には捕食性カメムシを、ハモグリバエ類には寄生蜂を有力天敵として選抜し、ソバ、バジル類、カラシナ類を天敵温存植物として用いる技術を開発しました。

・農林水産技術会議事務局 HP：研究紹介 2 0 1 8

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public\\_offering/agri\\_food/2018/27009b.html](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27009b.html)

☆森林・林産関係

○半炭化処理による高性能木質舗装材の製造技術開発

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所は、奈良県森林技術センター、東北工業大学、ニチレキ（株）、（有）地域資源活用研究所と共同で、木材チップを半炭化処理し、常温施工可能な接着材で固め、長寿命で環境負荷の小さい高性能な木質舗装資材を開発しました。この舗装資材は、耐久年数 2 0 年、従来のアスファルト舗装材よりも 5 0 % 軽量化し、使用後は燃料とし、その灰は資材としてリサイクル可能です。その利用実証試験では、開発品はクッション性に優れ歩きやすいことが明らかにされました。5 年後にはカラーアスファルトの価格以下で施工する予定とのことです。また、この舗装材を地域内で製造・利用するシステムが提示されており、地域における雇用創出が期待されます。

・農林水産技術会議事務局 HP：研究紹介 2 0 1 8

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public\\_offering/agri\\_food/2018/pdf/27014c.pdf](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/pdf/27014c.pdf)

.....

## 編集後記

令和改元後、初めての選挙となる参議院選挙が7月4日に公示され、7月21日（日）が投票日となります。日本の未来を決めるのは結局のところ選挙を通じて表わされた民意です。選挙の結果によって、一定の政策が実施され、これが経済・社会に反映し、その結果が自らと隣人、子供、孫の世代の生活に大きく影響してきます。いずれにせよ、自らの一票を大事にしていきましょう。

ところで、最近読んだ本に、山田英夫著「ビジネス・フレームワークの落とし穴」（光文社新書：2019年初版発行）があります。筆者は、三菱総合研究所でコンサルティングに従事した後、現在は早稲田大学大学院経営管理研究科（ビジネススクール）教授で、競争戦略論、ビジネスモデルを専門とされています。著者は、米国を中心とした海外から輸入された数多くの経営手法・フレームワーク（＝ビジネス・フレームワーク）による経営戦略の分析・策定について、「その使い方によっては両刃の剣であり、誤った使われ方によって意思決定が歪むこともある。作成者の主観や意思が入り込んでいることを知らずに意思決定していると大きなミスをしてしまうことがある」と忠告しています。しかし、ビジネス・フレームワークは、「今日より前に生まれた優秀な方々の英知が詰まっており、時代を超えて洗練されてきたものである。自らそれを考えようとすると、とてつもない時間と労力を必要とする」ので、料理を食べる時のナイフとフォークのように巧く使い、経営戦略を考える時の手段と考えるべきとも述べています。本書では、経営戦略関係のフレームワークでは、例えば、PEST分析、SWOT分析など18、マーケティング関係ではポジショニングなど8、組織・人事関係ではコア・コンピタンスなど8、財務・M&A関係では3、その他で6と合計43項目について、具体的な使い方が解説されています。提案書の作成などでビジネス・フレームワークを利用する際に、所定の表の空欄を埋めるのに気を取られ、誤まった使いをしてしまうことがあるかもしれません。本書では、様々なフレームワークについて簡潔に触れられているので、読者にとって、それらを知る機会となると共に、正しい使い方をしていくための参考になると思われます。

（松井正春 記）

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（\*を@に書き換えてください）

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年8月9日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第176号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (9月30日)
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆東海農政局 食品安全セミナー (8月21日)
- ☆しげんさいせいネット 夏期セミナー (8月28日)
- ☆名古屋大学協力会 講演会 (9月20日)
- ☆植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月29日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度戦略的国際共同推進委託事業のうち
- 地球規模の課題解決に向けた国際共同研究の推進 (農林水産省)
- ☆2019年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
- ICT 基礎・育成型研究開発 (3年枠) (総務省)
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆2019年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャー
- に対する事業化支援 (第2回公募) (NEDO)
- ☆2019年度戦略的省エネルギー技術革新プログラム (第2回公募) (NEDO)
- ☆バイオマスエネルギーの地域自立システム化実証事業/事業性評価 (FS)、実証
- 事業」 (NEDO)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆ 1 ◆ 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー

当研究会は、第2回セミナーを下記の通り開催しますので、ご案内致します。

【開催日時】 2019年9月30日（月） 13:30～17:00

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 12階 1206号室&1207号室  
（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【開催案内】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2614>

【内容】

○第1会場（1206会議室）

・作物部会

演題：食用サボテンの研究および産業利用における最近の展開

講師：中部大学応用生物学部講師 堀部貴紀 氏

・食品部会

演題：交流電界ミニマムヒーティングプロセスによる食品の高品質殺菌

講師：農研機構 食品研究部門 食品加工流通研究領域 植村邦彦 氏

○第2会場（1207会議室）

・畜産部会

演題：周年親子放牧による高収益繁殖経営

講師：農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究監 山本嘉人 氏

・林産部会

演題：森林環境税・森林環境譲与税の活用による森林整備と研究展開

講師：三重大学大学院生物資源学研究科 教授 中井毅尚 氏

・水産部会

演題：沿岸域貧栄養化対策としての複合養殖技術の開発

講師：水産研究・教育機構 増養殖研究所 養殖システム研究センター  
主幹研究員 渡部諭史 氏

【主催】 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【後援】 名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構 中央農業研究センター

公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会

【交流会】 ウィンクあいち 12階 1206号室 17:00～18:30

参加費 2,500 円

【技術相談会】 ご相談のある方は、事前に東海生研の下記宛先に、相談内容を記載してお送り下さい。相談会は、15時45分から2016会議室で、農林水産省産学連携コーディネーターが対応させていただきます。

【申込み】 講演会は参加費無料。申込締切日：9月17日（火）

参加申込みは、上記の「開催案内」の URL をクリックし、申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

.....

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (予定)

当研究会は、第3回セミナーを下記の通り開催する準備を進めていますので、ご案内致します。

【開催日時】 2019年10月31日 (木) 13:00~17:00

【開催場所】 ウィンクあいち (愛知県産業労働センター) 12階 1201号室  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【内容】 全体タイトル「新品種開発に係る状況と東海地域発の新品種紹介」

講演内容

(1)品種の権利保護、種苗登録を巡る現状と課題 (仮題)

講師：農林水産省食料産業局知財課 担当者

(2)野菜における DNA マーカー利用技術の開発と利用

講師：農研機構 野菜花き研究部門 安濃野菜研究監 松元 哲 氏

(3)東海地域の各県で育成された新品種の紹介

・硬くならない短鎖アミロペクチン糯米新品種 (仮題)

講師：愛知県農業総合試験場 山間農業研究所 主任研究員 吉田朋史 氏

・イチゴ種子繁殖型品種「よつばし」の開発と今後の展開について

講師：三重県農業研究所 野菜園芸研究課長 北村八祥 氏

・10月出荷可能な高糖度のカキ新品種「ねおスイート」の育成 (仮題)

講師：岐阜県農業技術センター 杉浦真由 氏

・伊豆特産花きの育種

講師：静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター 勝岡弘幸 氏

ポスター展示：「東海地域発の新品種」についてのポスター展示を行います。

・世界初！新しいマーガレット雑種の育成

静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター

・硬質小麦タマイズミの縮萎縮病抵抗性を強化した新品種「タマイズミ R」の開発  
と高品質安定生産方法の確立

三重県農業研究所 農産研究課

・岐阜県、愛知県も展示予定です。

実物展示：

・マーガレット新品種 「風恋香」及び「シェリエメール」

静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター

交流会でも新品種関係の展示を行います。

【主催】農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【交流会】ウインクあいち 12階 1201号室 参加費 2,500円

【申込み】講演会は参加費無料。

参加申込みは、後日、当研究会のホームページに参加申込書を掲載しますので、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（＊を@に書き換えてください）

## ◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食品安全セミナー

（東海農政局）

【開催日時】2019年8月21日（水）13：30～16：00

【開催場所】東海農政局 第1会議室（1階）（愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2）

会場案内図は下記の「チラシ」を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【主催】東海農政局

【プレスリリース】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190729.html>

【チラシ】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/190729-1.pdf>

【内容】

第1部 13：30～14：05

「食品安全と行政の取組 ～農畜産物の安全確保について～」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課 職員

第2部 14：20～15：50

「農薬について」

東海農政局 消費・安全部 安全管理課 職員

【参加者募集】募集人数 40名

（申込み多数によりご参加いただけない場合は、連絡があります）

参加費：無料

対象：一般消費者

【申込み】申込期限 8月19日（月）17時まで

参加申込書は上記プレスリリースの URL にある申込様式に記入し、インター

ネットで送信、あるいは上記の「チラシ」にある参加申込書に必要事項をご記入の上、FAX 又はインターネットでお申し込み下さい。

【お問い合わせ先】消費・安全部消費生活課

担当者：消費者対応班

代表：052-223-4651（内線2807）

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX 番号：052-220-1362

.....

☆しげんさいせいネット 夏期セミナー

（しげんさいせいネット）

【開催日時】2019年8月28日（水）9：00～19：00

【開催場所】メルパルク名古屋（名古屋市東区葵3-16-16 TEL: 052-937-3535）

午前の企画 会員先進事例の現地視察会（株式会社エイゼン）

（マイクロバスにて移動）

9時メルパルク名古屋玄関前集合・出発9時～帰着14時

午後の企画 記念講演と事例報告及び懇親交流会

【開催案内】<http://shigen-saisei.net/2019/0729-142253.html>

【講演】

- ・「SDGs の歴史的意義と企業経営に及ぼす影響」

特定非営利活動法人中部プロボノセンター共同代表・中京大学大学院客員教授・  
愛知淑徳大学非常勤講師・元西友取締役副社長 戸成司朗 氏

- ・「持続可能な社会を目指して SDGs ～地球で一番「ありがとう」を集める～」

株式会社ワタミ SDGs 推進本部長・日本ショッピングセンター協会理事・一般  
社団法人中部 SDGs 推進センター副代表理事・元ユニー株式会社上席執行 CSR  
部長・ユニーファミリーマートホールディングス株式会社執行役員

百瀬則子 氏

【参加費】会員1名まで無料、2名以降5,000円／1人、会員以外 5,000円／1人

8月16日までに上記の開催案内から申込書を取り出し、ご記入の上、FAX 又は E-mail でお送り下さい。

【送信先】しげんさいせいネット事務局（担当：長谷川）

FAX: 052-703-2119 TEL: 052-703-2108

E-mail: [shigensaiseinet@tcoop.or.jp](mailto:shigensaiseinet@tcoop.or.jp)

.....

☆名古屋大学協力会 講演会

「脱炭素社会構築に貢献する森林資源利用 ～イノベーション最新動向～」

【開催日時】 2019年9月20日（金） 14:00～17:00

【開催場所】 名古屋大学 ベンチャービジネスラボ（VBL）内 3階 ベンチャーホール  
会場地図 <http://www.>

【主催】 名古屋大学協力会

【プログラム】

講演1：「木質バイオファイナリーの現状と課題」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 福島和彦 氏

講演2：「森―街連携を構築する都市の木質化」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授 山崎真理子 氏

【個別相談会】 16:40～17:00

【お申込み・お問合せ】 名古屋大学協力会事務局

電話／ファックス：052-782-1811 E-mail：kyouryokukai@aip.nagoya-u.ac.jp

.....  
☆植物ゲノム編集技術ワークショップ

（農研機構）

ゲノム編集がどのような技術で、どんな作物改変ができるのか、規制や知財の問題等  
についての情報を得ることができます。

【開催日時】 2019年11月29日（金） 13:30～16:30

【開催場所】 AP名古屋. 名駅 8階（B+C）会議室

（名古屋市中村区名駅 4-10-25 名駅 IMAI ビル）

【プログラム】

- ・開会挨拶・資料確認・進め方など
- ・ゲノム編集農作物の開発状況
- ・植物ゲノム編集の実際の手順
- ・ゲノム編集農作物の規制について
- ・植物ゲノム編集の知財について
- ・質疑応答
- ・閉会挨拶

【開催案内】 <https://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2019/07/131516.html>

【参加申込み方法】 上記の開催案内の URL にある「申込サイト」からお申込み下さい。  
なお、上記開催案内に「チラシ」、「申込フォーム」もございます。  
申込順で定員になり次第締切りとなります。

【お問い合わせ】 農研機構 企画戦略本部 新技術対策室（担当：吹野、大田）

電話：029-838-7115

E-mail：[kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp](mailto:kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp)

### ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。<http://www.jataff.jp/>

### ◆ 4 ◆ 2019 年度競争的研究資金等について

☆2019 年度戦略的国際共同推進委託事業のうち「地球規模の課題解決に向けた国際共同研究の推進」（農林水産省）

[http://www.affrc.maff.go.jp/kokusaikenkyu/tikyu\\_kibo.html](http://www.affrc.maff.go.jp/kokusaikenkyu/tikyu_kibo.html)

分野等：越境性病害の我が国への侵入防止に資する研究及び地球温暖化緩和に資する研究を、日本国内に設置された大学、民間企業、国立研究開発法人、公設試験研究機関等の研究機関と、日本以外の G20 メンバー国のうち 1 か国又は数か国に設置された大学、民間企業、国や州政府が所管する研究機関等が国際共同研究として実施する。

公募期間：2019 年 7 月 19 日～8 月 27 日

.....

☆2019 年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE） ICT 基礎・育成型研究開発（3 年枠）（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000282.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000282.html)

分野等：以下の 1～8 の ICT の研究開発分野（分類の融合領域や分類横断的な研究開発を含む）を対象とする。

1. センシング&データ取得基盤分野
2. 統合 ICT 基盤分野
3. データ利活用基盤分野
4. 情報セキュリティ分野
5. 耐災害 ICT 基盤分野
6. フロンティア研究分野
7. IoT/BD/AI 技術の研究開発分野
8. 衛星データ利活用分野

公募期間：2019年7月10日～10月11日

.....  
☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長10年

研究開発費：実施料納付、原則1億円～15億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第2回目締切 11月29日、2020年3月31日（第3回）

.....  
☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：2019年11月29日（第2回）、2020年3月31日（第3回）

.....  
☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後10年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：2019年11月29日（第2回）、2020年3月31日（第3回）

.....  
☆2019年度 研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援（第2回公募） (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100213.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100213.html)

分野等：ベンチャーエコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等とNEDOが協調し、シード期の研究開発型ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：2019年7月4日～8月23日

.....  
☆2019年度 戦略的省エネルギー技術革新プログラム（第2回公募） (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/DA2\\_100258.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/DA2_100258.html)

分野等：現行の「省エネルギー技術戦略」に掲げる「重要技術」を中心に、高い省エネルギー効果が見込まれる技術開発を対象として助成する。

公募期間：2019年7月18日～8月23日

.....  
☆バイオマスエネルギーの地域自立システム化実証事業/事業性評価（FS）、実証事業  
(NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2\\_100262.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100262.html)

分野等：

1. 地域自立システム化実証事業/事業性評価（FS）（委託事業）  
バイオマスエネルギー利用に係る設備機器の技術指針、システムとしての導入要件を改訂するため、バイオマス種（木質系、湿潤系、都市型系、混合系等）ごとに、FIT 制度や補助金等に頼らない事業を念頭においた事業性評価（FS）を実施する。
2. 地域自立システム化実証事業/実証事業（助成事業）  
バイオマスエネルギー利用に係る設備機器の技術指針、システムとしての導入要件を策定するため、実証事業を実施する。

公募期間：2019年8月1日～30日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/public/public-2585>

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○新しい殺菌法（交流高電界殺菌法）を利用した果汁製品の製造が始まります

従来の加熱のみによる殺菌法では、熱に弱い食品素材の色、香りの劣化、栄養・機能成分の減少を抑えることが難しいため、より高い品質を達成できる殺菌方法が求められていました。そこで、農研機構食品研究部門では、従来の殺菌方法と比べて、熱による変色を約 1/5、加熱臭の発生を約 1/4、ビタミン C の減少を 1/10 などに押さえられる交流高電界殺菌技術とそれを活用した殺菌装置を開発しました。なお、本研究結果については、NPO 法人東海生研の 2019 年度第 2 回セミナーにおいて講演が行われます。

・農研機構ホームページ：プレスリリース

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nfri/049382.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri/049382.html)

・NPO 法人東海生研ホームページ：2019 年度第 2 回セミナー

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2569>

#### ☆米・麦・大豆関係

○大豆の莢(さや)をはじけにくくして収穫ロスを減らしました

大豆が成熟すると、自然に莢がはじけて豆が畑に散らばったり、さらには、コンバイン収穫時に機械の衝撃で莢がはじけて豆がこぼれてしまうことがよくあり、こうした脱粒ロスは、条件によっては 60kg/10a になることがあります。そこで、農研機構 次世代作物開発研究センターでは、定評のある元の品種と難裂莢性以外は同等の性質を持った新品種（フ

クユタカ A1 号、えんれいのそら、サチユタカ A1 号、関東 122 号）を育成しました。新品種導入の経済的効果を試算すると、フクユタカ A1 号を A 県の経営規模拡大のための刈り遅れ気味の大豆圃場に導入した場合、収穫ロスが 31.1kg/10a 減って、収入（販売価格＋

交付金）は 13,670 円/10a アップが可能です。

・農研機構ホームページ：一目でわかる研究成果集

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/glance/files/cat02\\_8.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/glance/files/cat02_8.pdf)

#### ☆園芸関係（野菜）

○タマネギ機械化一貫体系導入による大規模法人経営体への発展モデルの試算

静岡県農林技術研究所は、生食用タマネギ栽培の慣行規模の経営体が、所得を最大化するように、機械化一貫体系の各機種（育苗：セルトレイ底面給水、移植：半又は全自動移植機、収穫：茎葉切断機・収穫機、調整：根切葉切調整機）を順次段階的に導入し、ビジネス経営体（粗収益 5,000 万円以上の大規模法人経営体）に到達するまでの経営発展モデルを線形計画法により提示しました。発展段階に応じて、機械の段階的導入、雇用拡大、経営面積の拡大を図ることも必要となっています。この試算によって、生食用タマネギ生産経営体の発展イメージがつかめます。

・静岡県農林技術研究所ホームページ：研究成果情報 2017 年度 経営・生産システム科

<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/report/report00006.html>

#### ☆畜産関係

○放牧方式等を反映した肉用牛繁殖経営の評価モデル構築と経営成果の比較

肉用牛繁殖経営においては、水田や里山の利活用推進のための放牧が普及しつつありますが、放牧期間や対象とする牛、草地利用方式などにより経営成果は異なってきます。そ

こで、放牧方式等のつがいによる子牛生産コストや収益性の評価が可能な経営評価モデルを構築し、国産飼料を活用しつつ、低コストかつ収益性の高い肉用牛繁殖経営の展開方向を明らかにしました。その結果、様々な放牧方式別の経営成績を比較すると、妊娠牛の季節移動放牧による子牛生産のコスト低減効果は、周年舎育と比べて 10%程度にとどまりますが、周年親子定置放牧と冬季飼料の外部調達により約 40%のコスト低減が図れることが分かりました。なお、本研究成果と関係した内容について、NPO 法人東海生研の 2019 年度第 2 回セミナーにおいて講演が行われます。

・アグリサーチャー 農業研究見える化システム：

<https://mieruka.dc.affrc.go.jp/seika/show/238050>

・NPO 法人東海生研ホームページ：2019 年度第 2 回セミナー

<http://www.biotech-tokai.jp/archives/2569>

#### ☆水産関係

##### ○浅海魚類の貧酸素化に対する動態解明

東京湾では貧酸素水塊による魚類への影響が懸念されており、魚類等が生き残るために、

貧酸素水塊からの避難場所を造ることが検討されています。そこで、神奈川県水産技術センターでは、横浜港内の運河・水路部に造成された浅場において、周辺海域の貧酸素水塊の発生状況と魚類採集状況から造成場所の避難場所としての機能を調査しました。その結果、横浜港内では、毎年 7 月から 9 月にかけて底層の広範囲で貧酸素水塊が観測されています。浅場に造成された「砂だまり」においては、周辺海域から独立した貧酸素水塊が観測され、その場自身が貧酸素水塊の発生源となり、底層は 7 月から 9 月の間貧酸素化しました。一方、「人工海浜（干潟）」では、9 月のみ底層の貧酸素化が観測されました。「人工

海浜」における底生魚類の採集数は、沖合海域が貧栄養化すると「人工海浜での」採集数が増える傾向が見られ、一方、「砂だまり」では変化はありませんでした。このことから、

「人工海浜」は、貧酸素水塊からの底生魚類の避難場所となっていると考えられました。

・水産研究・教育機構ホームページ：水産研究開発成果情報

[http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmngnrg/cgi-](http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmngnrg/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=8144&YEAR=2018)

[bin/search/search\\_detail.cgi?RESULT\\_ID=8144&YEAR=2018](http://fra-seika.fra.affrc.go.jp/~dbmngnrg/cgi-bin/search/search_detail.cgi?RESULT_ID=8144&YEAR=2018)

#### ☆森林・林産関係

○総ひのき注文住宅を村から街へお手軽ネット直販（岐阜県東白川村の林業高度化プロジェクト）

このプロジェクトは総務省の「ICT を活用した地域活性化事業」により実施されました。

東白川村が、内外の住宅建築予定者向けに、住宅の間取り・費用を自由に設計できるシミュレーションシステムと、代理人（村役場職員）が最適な建築士や工務店をマッチングできる仕組みを構築しました。住宅のネット直販という画期的な発想の具体化を図り、平成 21～25 年実績で、国産材を利用した住宅建築の受注件数 118 件、売上高約 31 億円となり、

新規顧客の獲得にも役立っています。これにより、村の森林組合の木材出荷額増（約 48% 増）、建設業の売り上げ増（約 70% 増）を達成し、村民一人当たり所得増（約 16% 増）に貢

献しました。

・総務省ホームページ：ICT による地域創生成功事例

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/top/local\\_support/ict/data/taisho/pdf/07\\_gifu.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/local_support/ict/data/taisho/pdf/07_gifu.pdf)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

編集後記

8 月に入って、朝早くからセミの鳴き声が聞こえてきます。全国各地で厳しい暑さが続いているようですが、皆様、体調はいかがでしょう。テレビの天気予報では、「熱中症に嚴重注意してください。水分・塩分の補給に心がけて、実行してください。」と毎日のように報道されております。できるだけ日陰を選んで歩くようにするなど、熱中症対策を万全に行い、体を大切に、暑い夏を乗り切りましょう。

さて、公共政策や科学哲学を専攻されており、医療経済や社会保障の分野に関する本を多く書いておられる広井良典氏の著書「定常型社会 新しい『豊かさ』の構想」（岩波新書：2014 年 11 月 5 日第 13 刷発行）を読みました。著者によれば、「定常型社会」とは、単純に言えば、「（経済）成長」を絶対的な目標としなくとも十分な豊かさが実現されていく社会であり、「持続可能な福祉国家/福祉社会」で「個人の生活保障がしっかりと成されつつ、それが資源・環境制約とも両立しながら長期にわたって存続しうる社会」の姿のことと述べています。著者は「定常型社会」として考えうる社会の像として、第一にリサイクルやエネルギー消費のあり方の転換などを通じて環境への負荷を増すことなく、あるいは資源の枯渇を招くことなく「豊かさ」が拡大していく社会経済の追求といった「環境効率性」の高い経済社会、第二に「（経済の）量的拡大を基本的な価値ないし目標としない社会」、第三には、自然や伝統行事や芸能、民芸品等の「＜変化しないもの＞」にも価値を置くことができる社会」をあげています。

さらに、著者は定常型社会において豊かさを実感できる例として、介護・福祉や自然保護などの活動に関して、自発的に参加してネットワークをつくり、互いに支えあったり喜

びを共有しあったりする様々な活動が、参加した個人に充足感を与えていることについて、「根源的な時間の発見」というキーワードで表現しており、これらのことはおおいに共感できるものと思いました。

(中山博導 CD

記)

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年9月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第177号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー (9月30日)
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆名古屋大学協力会 講演会 (9月20日)
- ☆東海農政局 食品安全セミナー (9月27日)
- ☆第8回三重大大学生物資源学研究科オープンラボ (9月27日)
- ☆2019年度野菜花き課題別研究会 (10月28日)
- ☆植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月29日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2020年度科学研究費助成事業(科研費) (文部科学省)
- ☆2020年度科学研究費助成事業(科研費) (独立行政法人日本学術振興会)
- ☆2019年度戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE) (総務省)
- ICT基礎・育成型研究開発(3年枠)
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-Aタイプ
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆民間の競争的研究資金
- ☆研究開発関連以外
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆1◆2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第2回セミナー

当研究会は、第2回セミナーを下記の通り開催しますので、ご案内致します。

【開催日時】2019年9月30日(月) 13:30～17:00

【開催場所】 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 1 2 階 1206 号室&1207 号室  
（名古屋市中村区名駅 4 丁目 4-38）

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【開催案内】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2569>

【内容】

○第 1 会場（1206 会議室）

・ 作物部会

演題：食用サボテンの研究および産業利用における最近の展開

講師：中部大学応用生物学部 講師 堀部貴紀 氏

・ 食品部会

演題：交流電界ミニマムヒーティングプロセスによる食品の高品質殺菌

講師：農研機構 食品研究部門 食品加工流通研究領域 植村邦彦 氏

○第 2 会場（1207 会議室）

・ 畜産部会

演題：周年親子放牧による高収益繁殖経営

講師：農研機構 畜産研究部門 畜産飼料作研究監 山本嘉人 氏

・ 林産部会

演題：森林環境税・森林環境譲与税の活用による森林整備と研究展開

講師：三重大学大学院生物資源学研究科 教授 中井毅尚 氏

・ 水産部会

演題：沿岸域貧栄養化対策としての複合養殖技術の開発

講師：水産研究・教育機構 増養殖研究所 養殖システム研究センター  
主幹研究員 渡部諭史 氏

【主催】 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【後援】 名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構 中央農業研究センター

公益社団法人 農林水産・食品産業技術振興協会

【交流会】 ウィンクあいち 1 2 階 1206 号室 17：00～18：30

参加費 2,500 円

【技術相談会】 ご相談のある方は、事前に東海生研の下記宛先に、相談内容を記載してお送り下さい。相談会は、15時45分から1206 会議室で開催し、農林水産省産学連携コーディネーターが対応させていただきます。

【申込み】 講演会は参加費無料。申込締切日：9月17日（火）

参加申込みは、上記の「開催案内」の URL をクリックし、申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX：052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー

当研究会は、第3回セミナーを下記の通り開催しますので、ご案内致します。

【開催日時】 2019年10月31日(木) 13:00~17:15

【開催場所】 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) 12階 1201号室  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【開催要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2602>

【内容】 全体タイトル「新品種開発に係る状況と東海地域発の新品種紹介」

講演内容

(1)品種の権利保護、種苗登録を巡る現状と課題(仮題)

講師：農林水産省食料産業局知財課 担当者

(2)野菜におけるDNAマーカー利用技術の開発と利用

講師：農研機構 野菜花き研究部門 安濃野菜研究監 松元 哲 氏

(3)東海地域の各県で育成された新品種の紹介

・硬くならない短鎖アミロペクチンもち米新品種(仮題)

講師：愛知県農業総合試験場 山間農業研究所 主任研究員 吉田朋史 氏

・イチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」の開発と今後の展開について

講師：三重県農業研究所 野菜園芸研究課長 北村八祥 氏

・10月出荷可能な高糖度のカキ新品種「ねおスイート」の育成(仮題)

講師：岐阜県農業技術センター 杉浦真由 氏

・伊豆特産花きの育種

講師：静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター 勝岡弘幸 氏

ポスター展示：「東海地域発の新品種」についてのポスター展示を行います。

静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター

・世界初！新しいマーガレット雑種の育成

実物展示：マーガレット新品種「風恋香」及び「シェリエメール」

三重県農業研究所

・硬質小麦タマイズミの縮萎縮病抵抗性を強化した新品種「タマイズミ R」の  
開発と高品質安定生産方法の確立

岐阜県農業技術センター

・岐阜県の育成した花き類

実物展示：カキ新品種「ねおスイート」

愛知県農業総合試験場

実物展示：短鎖アミロペクチンもち

交流会でも新品種関係の展示を行います。

【主催】農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室  
NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【交流会】ウインクあいち 12階 1201号室 参加費 2,500円

【申込み】講演会は参加費無料。

参加申込みは、上記の開催要領にあります参加申込書を印刷し、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（＊を@に書き換えてください）

## ◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆名古屋大学協力会 講演会

「脱炭素社会構築に貢献する森林資源利用 ～イノベーション最新動向～」

【開催日時】2019年9月20日（金）14：00～17：00

【開催場所】名古屋大学ベンチャービジネスラボ（VBL）内 3階 ベンチャーホール  
会場地図 <http://www.vbl.nagoya-u.ac.jp/access/index.html>

【開催案内】

<http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/industry/about/event/detail/post-74.html>

【主催】名古屋大学協力会

【プログラム】

講演1：「木質バイオファイナリーの現状と課題」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 教授 福島和彦 氏

講演2：「森—街連携を構築する都市の木質化」

名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授 山崎真理子 氏

【個別相談会】16：40～17：00

【お申込み・お問合せ】名古屋大学協力会事務局

電話／ファックス：052-782-1811 E-mail：kyouryokukai@aip.nagoya-u.ac.jp

☆食品安全セミナー

（東海農政局）

【開催日時】2019年9月27日（金）13：30分～16：00

【開催場所】東海農政局 第1会議室（1階）（愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2）

会場案内図は下記の「チラシ」を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関の利用をお願いします。

【主催】 東海農政局

【プレスリリース】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190829.html>

【チラシ】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/190829-1.pdf>

【内容】

第1部 13:30～14:05

「どうなってるの日本の農業（平成30年度食料・農業・農村白書）」

農林水産省 大臣官房 広報評価課 情報分析室 課長補佐 武藤明子 氏

第2部 14:20～15:50

「ゲノム編集技術等の農業・食品分野への応用について」

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究企画課 職員

【参加者募集】 募集人数 40名

(申込み多数によりご参加いただけない場合は、連絡を致します)

参加費：無料

対象：一般消費者

【申込み】 申込期限 9月25日（水）17時

参加申込書は上記「プレスリリース」のURLにある申込様式に記入し、インターネットで送信、あるいは上記の「チラシ」にある参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込み下さい。

【お問い合わせ先】 消費・安全部消費生活課

担当者：消費者対応班

代表：052-201-7271（内線2810）

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX 番号：052-220-1362

.....

☆第8回三重大学生物資源学研究科オープンラボ

【開催日時】 2019年9月27日（金）13:00～17:45

【開催場所】 三重大学生物資源学部2階大講義室・環境情報科学館

【開催案内】 <http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/2019/08/8-5.html>

【チラシ】 [http://www.mie-](http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/item/f212f8b7c26de271aa3f5b2894c49fa8.pdf)

[u.ac.jp/topics/events/item/f212f8b7c26de271aa3f5b2894c49fa8.pdf](http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/item/f212f8b7c26de271aa3f5b2894c49fa8.pdf)

【内容】

第1部 開会あいさつ「令和を迎えた生物資源学研究科の展望」

「これからの農業土木学分野の基礎研究と地域貢献」

シンポジウム

(1)「三重大大学コーディネート育種基盤創生リサーチセンター」

(2)「三重大大学海藻バイオファイナリー研究センター」

第2部 パネルディスカッション（60分）

テーマ：「基礎研究から地域貢献・共同研究を考える」

第3部 ポスターセッション（90分） 場所：環境情報科学館

【対象】一般の方

【参加申込】参加費無料、FAXまたはE-mail、申込期限9月17日（火）

【お問い合わせ】三重大大学大学院生物資源学研究科チーム 総務担当（前川）

電話：059-231-9502、FAX：059-231-9634

E-mail：renkei@(@の後ろにbio.mie-u.ac.jpを付け加えて下さい)

【情報交流会】生協第1食堂 会費3千円

.....

☆2019年度野菜花き課題別研究会 (農研機構)

～ネギ属野菜生産を取り巻く現状と今後の課題～

【開催日時】2019年10月28日（月）13：00～29日（火）12：00

【開催場所】アスト津4階アストホール（津市羽所町700、電話059-222-2525）

【開催案内】<https://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2019/09/132028.html>

【開催日程・講演内容】下記のURLをご覧ください。

[https://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20191028\\_besshi.pdf](https://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20191028_besshi.pdf)

【参集範囲】1) 公立試験研究機関及び大学野菜研究担当者、2) 国及び地方自治体野菜行政・普及担当者、3) 日本種苗協会関係者、4) 国立研究開発法人野菜研究担当者、5) その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加申込み】参加費無料、締切期限10月11日（金）、定員250名で締め切られます。  
申込みは、上記の開催案内のURLをクリックし、インターネットでお申込み下さい。

種苗業関係者の方は、(一社)日本種苗協会のご案内に基づき、別途(一社)日本種苗協会へお申し込み願います。

【情報交換会】10月11日（金）までに6千円を下記宛てに送金して下さい。

会場：ホテルグリーンパーク津 10月28日18：00～20：00

【お問い合わせ先】野菜花き課題別研究会事務局

E-mail: kadaibetsu2019@ml.affrc.go.jp

.....

☆植物ゲノム編集技術ワークショップ (農研機構)

ゲノム編集がどのような技術で、どんな作物改変ができるのか、規制や知財の問題等についての情報を得ることができます。

【開催日時】 2019年11月29日（金） 13：30～16：30

【開催場所】 コンベンションセンターAP 名古屋. 名駅（IMAI ビル）8階（B+C）会議室

（名古屋市中村区名駅 4-10-25）

【プログラム】

- ・開会挨拶・資料確認・進め方など
- ・ゲノム編集農作物の開発状況
- ・植物ゲノム編集の実際の手順
- ・ゲノム編集農作物の規制について
- ・植物ゲノム編集の知財について
- ・質疑応答
- ・閉会挨拶

【開催案内】 <https://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2019/07/131516.html>

【参加申込み方法】 上記の開催案内の URL にある「申込サイト」からお申込み下さい。  
なお、上記開催案内に「チラシ」、「申込フォーム」もごさいます。  
申込順で定員になり次第締切りとなります。

【お問い合わせ】 農研機構 企画戦略本部 新技術対策室（担当：吹野、大田）

電話：029-838-7115

E-mail：[kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp](mailto:kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp)

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019年度競争的研究資金等について

☆2020 年度科学研究費助成事業（科研費）（文部科学省）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/boshu/1394559.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/boshu/1394559.htm)

分野等：新学術領域研究、特別研究促進費

公募期間：2019 年 9 月 1 日～11 月 7 日

.....

☆2020 年度科学研究費助成事業（科研費）（独立行政法人日本学術振興会）

[https://www.jsp.go.jp/j-grantsinaid/02\\_koubo/index.html](https://www.jsp.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/index.html)

分野等：特別推進研究、基盤研究（S・A・B・C）、挑戦的研究（開拓・萌芽）、若手研究

公募期間：2019 年 9 月 1 日～11 月 7 日

.....  
.

☆2019 年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）

ICT 基礎・育成型研究開発（3 年枠）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000282.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000282.html)

分野等：以下の 1～8 の ICT の研究開発分野（分類の融合領域や分類横断的な研究開発を含む）を対象とする。

1. センシング&データ取得基盤分野
2. 統合 ICT 基盤分野
3. データ利活用基盤分野
4. 情報セキュリティ分野
5. 耐災害 ICT 基盤分野
6. フロンティア研究分野
7. IoT/BD/AI 技術の研究開発分野
8. 衛星データ利活用分野

公募期間：2019 年 7 月 10 日～10 月 11 日

.....

☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム（JST）

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：実施料納付、原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 2 回目締切 11 月 29 日、2020 年 3 月 31 日（第 3 回）

.....  
☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：2019 年 11 月 29 日（第 2 回）、2020 年 3 月 31 日（第 3 回）  
.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：通年募集、2019 年 11 月 29 日（第 2 回）、2020 年 3 月 31 日（第 3 回）  
.....

☆＜民間の競争的研究資金＞

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/news/public#sec02>  
.....

☆＜研究開発関連以外＞

☆農林水産業等の研究分野における大学発ベンチャーの設立・事業化の促進に係る支援  
対象者の公募 (農林水産省（経営局）)

<http://www.maff.go.jp/j/press/keiei/kinyu/190902.html>

分野等：大学等においては、農林水産業・食品産業が抱える課題の解決に資する研究技術シーズを多数保有しており、その実用化によって農林水産業・食品産業の課題解決につなげていくことが重要となっている。このため、本事業においては、そのような研究・技術シーズを基にした起業化・ビジネス化による実装を図ることを目的に、それを志向する研究者等に対し、ベンチャー企業の設立・事業化に必要な各種支援を行う。

公募期間：2019 年 9 月 2 日～10 月 1 日  
.....

☆平成 31 年度 ものづくり・商業・サービス高度連携促進補助金（二次公募）

(全国中小企業団体中央会)

[https://www.chuokai.or.jp/hotinfo/mhr2\\_koubo31fy.html](https://www.chuokai.or.jp/hotinfo/mhr2_koubo31fy.html)

分野等：中小企業・小規模事業者等が連携して取り組む、生産性向上や地域経済への波及効果拡大に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための設備投資等を支援する。

公募期間：2019年8月26日～9月27日

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

##### ☆食品関係（機能性）

○温室メロンには機能性関与成分の GABA が安定的に含まれている

静岡県農林技術研究所は、1998年に温室メロンに高めの血圧を下げる効果が期待される機能性を有するアミノ酸 GABA が豊富に含まれていることを確認しました。今回、機能性表示を目指して、届出に必要な機能性関与成分 GABA を含めた果実品質について、年間を通じてモニタリングを行いました。その結果、静岡県温室農業協同組合が管理する独自品種「アールス・フェボリット」には、機能性表示のための「1日摂取目安量」を90g定めた場合に、「ストレス緩和」機能の表示に必要な GABA 摂取量 28mg を、年間を通じていつの時期のメロンでも上回っていることが明らかになりました。なお、年間を通じての GABA 含量の最も大きな変動要因は、収穫月で、品種と果重がそれに続く結果となりました。

・静岡県農林技術研究所 HP：研究成果／2018年度 加工技術科

<https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/report/>

##### ☆園芸関係（果樹）

○モモ優良品種「さくひめ」の果実品質向上技術を開発

農研機構が育成したモモ新品種「さくひめ」は、6月下旬から収穫でき、果実品質が優れ

ていますが、果皮が紅く着色する部分が少ないという特性があります。また、年によって、

果皮に果点が発生し、程度が激しい場合には裂果を起こす場合があります。このため、愛知県農業総合試験場では、6月上旬から光反射シートを「さくひめ」の樹下に敷くことで、

果実表面の着色部分の割合を高くすることが出来ました。さらに、5月上旬に2重袋をかけ、

6月上旬に外側の袋を外すことで果皮の紅色を濃くすることができました。また、二重袋を

かけることで、果点と裂果の発生を軽減することができました。

・愛知県農業総合試験場 HP：2018年の10大成果

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nososi/2018nougyouougousikennjou-10daiseika.html>

##### ☆病害虫関係

#### ○油脂系気門封鎖剤の新たな作用を発見しました

タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病ウイルスを媒介し深刻な被害をもたらすことがあり、繁殖力が高く、多くの殺虫剤に対して感受性を低下させていることが確認されています。岐阜県農業技術センターでは、油脂を主原料とする気門封鎖剤（脂肪酸グリセリド乳剤、調合油乳剤等）が、直接、害虫の気門を封鎖して窒息死させるだけでなく、忌避、産卵抑制、交尾阻害といった効果も有することを明らかにしました。これらの気門封鎖剤は、コナジラミ類だけでなく、トマトサビダニ、うどんこ病などにも防除効果を示します。

・岐阜県農業技術センターHP：研究成果 平成 30 年度

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

#### ☆畜産関係

##### ○開発ワクチンによってわが国から豚コレラを完全撲滅

豚コレラが岐阜県下で発生してから 1 年になりますが、今月に入ってから豚舎での発生が続き、野生猪の発生地域も拡大しており、根絶が困難な状況となっています。国際獣疫事務局（OIE）によりますと、豚コレラ発生から 2 年以内に新たな発生が無い状態が 3 ヶ月以上続いたことが確認されないと「清浄国」の格付けを失うとされています。

わが国における豚コレラの発生は 1887 年に始まり、2007 年に豚コレラフリー宣言が出されました。この間の 119 年間は多大の被害と豚コレラ撲滅研究の歴史でもありました。豚コレラの撲滅を可能にしたのは、旧家畜衛生試験場の研究者が大変な努力の末、豚コレラ生ワクチンを開発したことによります。1969 年から全国規模で生ワクチンの接種が開始され、1992 年には豚コレラの発生が見られなくなり、2000 年に生ワクチンの使用が原則停止

され、2006 年に完全停止されました。現在、生ワクチンは緊急用に国家備蓄されています。豚コレラの発生をあと 1 年以内に抑えることができない見通しであるならば、豚コレラ撲滅の唯一の手段である生ワクチンを使用して被害を減らすとともに、清浄国への復帰を早期に実現していくということも選択肢と考えられます。

・農研機構 HP：一目でわかる研究成果集

<http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/glance/cat05.html>

・農研機構 HP：清水（2012）日本における豚コレラの撲滅.

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/archive/files/119-01.pdf](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/archive/files/119-01.pdf)

・公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 HP：読み物コーナー「豚コレラ生ワクチンを開発した熊谷哲夫と家畜衛生試験場の研究

<https://www.jataff.jp/senjin3/34.html>

#### ☆水産関係

○三河湾・蒲郡地先干潟のシオフキ、カガミガイ、マテガイ、バカガイ、ハマグリ及びアサリの生息量

愛知県のアサリ漁獲高は全国一位が続いていますが、2014年頃から漁獲高が減少し始め、潮干狩りが中止となる事態となりました。愛知県水産試験場は、愛知県立三谷水産高等学校とともに、三河湾の蒲郡地先干潟で、標記6種類の二枚貝類の生息量調査をしました。その結果、カガミガイ、バカガイ、ハマグリを除く種類では、調査を開始した2014年から一貫して減少傾向を示しました。一方、ハマグリだけは増加傾向にあり、カガミガイ、バカガイは増減しています。本報告では、ハマグリが増加傾向にあるのは、珪藻類などの植物プランクトンや有機懸濁物を利用できること、栄養塩類の低下に伴い有機汚泥の堆積量が減少して泥分の少ない砂地を好むハマグリ of の生育に好適な環境となった可能性などが指摘されています。更に、アサリなどに寄生し、多発生しているカイヤドリウミグモがハマグリには寄生しないということもハマグリが増加しない要因の1つと思われます。ハマグリと他の二枚貝類の発生状況を比較検討し要因を分析することは、アサリの減少要因の解明に役立つと考えられます。

・愛知県水産試験場 HP: 愛知水試研報, 24: 26-34(2019)

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/291831.pdf>

.....

編集後記

9月に入り、まだ残暑が続いていますが、朝夕は少し涼しくなってきました。昨年9月に岐阜県下で豚コレラが発生してから丸1年になりますが、今月に入ってから愛知県下の養豚場で豚コレラが発生しました。関係者の大変な努力と防疫作業にもかかわらず、終息の目途が立っていません。病原ウイルスが野生猪に保持されていることから、養豚場の隔離施設化を進め、猪の接近防止と駆除、死肉をあさり、豚舎の餌も狙う野生鳥獣（鳥、狐狸、鼠など）の侵入・排糞落下防止、人による持ち込み防止を徹底するなどの対策が急務と考えられます。

ところで、最近読んだ本に、雨宮寛二著「サブスクリプション ～製品から顧客中心のビジネスモデルへ～」(2019年発行、角川新書)があります。「サブスクリプション」という言葉は筆者にとって目新しいものでしたが、最近のビジネストレンドとなっているようです。著者は、米国留学中に情報通信の技術革新に刺激を受け、その後、イノベーションやICTビジネスの競争戦略に関わる研究に携わった経験を有するジャーナリストです。

サブスクリプションとは、事業者からみると、利用期間に応じて利用者（会員）から料金を受け取り、継続的にサービス提供や製品の貸付・販売を行う事業システムであり、従来のワンショット販売を継続的な貸付・販売に転換できることから、財務的な安定基盤がもたらされます。このシステムでは、最近のデジタル化、ICT、AI技術が活用され、顧客情報（嗜好・経験等）を収集し、顧客毎にカスタマイズして商品・サービスを提供し、顧

客に選択してもらうことが可能となっています。利用者からみると、購入する場合にネット情報を調べる手間が省け、買い物に行く時間を省け、プロの目利きしたものが送られてくる楽しみがあり、高額のものを購入することなく利用でき、利用期間に応じて支払い、製品やサービスの変更が容易であるなどのメリットがあります。

この新たなサブスクリプションというビジネスモデルは、米国で勃興し日本でも急速に成長しており、様々な分野で展開されています。例えば、ソフト配信（音楽、映像、ゲーム、書籍）、ファッション（アパレル、高級バッグ）、家具、生鮮食品、化粧品、自動車、ペット用品、美容室など多くが知られています。著者は、今後、モノを売る（購入する）時代が終焉し、あらゆるモノがサブスク化する時代となると予測しています。

新しい時代の潮流に刺激を受けて、サブスクモデルを企業経営に取り入れ、あるいは起業してみたい方、これについて興味のある方には、本書は大変参考となると思われます。

（松井正春 CD 記）

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp （\*を@に書き換えてください）

U R L <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年10月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第178号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー (10月31日)
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
- 2019年度アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿
- (2020年1月28日～29日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆東海農政局 食品安全セミナー (10月25日)
- ☆2019年度野菜花き課題別研究会 (10月28日～29日)
- ☆野菜花き研究部門安濃野菜研究拠点一般公開 (11月9日)
- ☆東海農政局 官学合同セミナー (11月24日)
- ☆植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月29日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆1◆2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会 第3回セミナー

当研究会は、第3回セミナーを下記の通り開催しますので、ご案内致します。

【開催日時】2019年10月31日(木) 13:00～17:15

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター) 12階 1201号室  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

アクセス <http://www.winc-aichi.jp/access/>

【開催要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/2602>

【内容】 全体タイトル「新品種開発に係る状況と東海地域発の新品種紹介」

講演内容

(1)品種の権利保護、種苗登録を巡る現状と課題（仮題）

講師：農林水産省食料産業局知財課 担当者

(2)野菜における DNA マーカー利用技術の開発と利用

講師：農研機構 野菜花き研究部門 安濃野菜研究監 松元 哲 氏

(3)東海地域の各県で育成された新品種の紹介

・硬くならない短鎖アミロペクチンもち米新品種（仮題）

講師：愛知県農業総合試験場 山間農業研究所 主任研究員 吉田朋史 氏

・イチゴ種子繁殖型品種「よつぼし」の開発と今後の展開について

講師：三重県農業研究所 野菜園芸研究課長 北村八祥 氏

・10月出荷可能な高糖度のカキ新品種「ねおスイート」の育成（仮題）

講師：岐阜県農業技術センター 杉浦真由 氏

・伊豆特産花きの育種

講師：静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター 勝岡弘幸 氏

ポスター展示等：「東海地域発の新品種」についてのポスター・実物展示を行います。

静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター

・世界初！新しいマーガレット雑種の育成

実物展示：マーガレット新品種「風恋香」及び「シェリエメール」

三重県農業研究所

・硬質小麦タマイズミの縞萎縮病抵抗性を強化した新品種「タマイズミ R」の

開発と高品質安定生産方法の確立

岐阜県農業技術センター

・岐阜県の育成した花き類

実物展示：カキ新品種「ねおスイート」

愛知県農業総合試験場

実物展示：短鎖アミロペクチンもち

交流会でも新品種関係の展示を行います。

【主催】 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課産学連携室

NPO 法人東海地域生物系先端技術研究会

【交流会】 ウィンクあいち 1 2 階 1 2 0 1 号室 参加費 2,500 円

【申込み】 講演会は参加費無料。

参加申込みは、上記の開催要領にあります参加申込書を印刷し、必要事項をご記入の上、FAX 又は電子メールに添付してお送り下さい。

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

【開催目的】 地域における大学、民間企業、公設試験場、独立行政法人等、多数の研究開発のシーズや成果を募り展示するとともに、出展者及び来場者の相互の交流を図ります。

相談コーナー：開催期間中随時受付、農林水産省産学連携支援コーディネーターが対応

【お問合せ先】NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局（大石、道村）

TEL&FAX：052-789-4586

E-Mail：bio-npo2@y4.dion.ne.jp（道村）

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食品安全セミナー

（東海農政局）

【開催日時】2019年10月25日（金）13：30～15：30

【開催場所】ハートフルスクエアG（2階 研修室50）

（岐阜県岐阜市橋本町1丁目10番地23）

【主催】東海農政局

【プレスリリース】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/190912.html>

【チラシ】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/190912-1.pdf>

【内容】

第1部 13：30～13：50

「食品安全と行政の取組 ～食育推進について～」

東海農政局 消費・安全部 消費生活課 職員

第2部 14：00～15：30

「食品の安全を守るための行政の取組」

消費者庁 消費・安全課 職員

【参加者募集】募集人数 40名

（申込み多数によりご参加いただけない場合は、連絡を致します）

参加費：無料

対象：一般消費者

【申込み】申込期限 10月23日（水）17時

参加申込書は上記「プレスリリース」のURLにある申込様式に記入し、インターネットで送信、あるいは上記の「チラシ」にある参加申込書に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込み下さい。

【お問い合わせ先】消費・安全部消費生活課

担当者：消費者対応班

代表：052-201-7271（内線2810）

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX 番号：052-220-1362

☆2019年度野菜花き課題別研究会

（農研機構）

～ネギ属野菜生産を取り巻く現状と今後の課題～

【開催日時】 2019年10月28日（月）13：00～29日（火）12：00

【開催場所】 アスト津4階アストホール（津市羽所町 700、電話 059-222-2525）

【開催案内】 <https://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2019/09/132028.html>

【開催日程・講演内容】 下記の URL をご覧ください。

[https://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20191028\\_besshi.pdf](https://www.naro.affrc.go.jp/event/files/nivfs20191028_besshi.pdf)

【参集範囲】 1) 公立試験研究機関及び大学野菜研究担当者、2) 国及び地方自治体野菜行政・普及担当者、3) 日本種苗協会関係者、4) 国立研究開発法人野菜研究担当者、5) その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加申込み】 参加費無料、締切期限 10 月 11 日（金）、定員 250 名で締め切られます。  
申込みは、上記の開催案内の URL をクリックし、インターネットでお申込み下さい。

種苗業関係者の方は、（一社）日本種苗協会のご案内に基づき、別途（一社）日本種苗協会へお申し込み下さい。

【情報交換会】 10 月 11 日（金）までに 6 千円を下記宛てに送金して下さい。

会場：ホテルグリーンパーク津 10 月 28 日 18：00～20：00

【お問い合わせ先】 野菜花き課題別研究会事務局

E-mail: kadaibetsu2019@ml.affrc.go.jp

.....

☆野菜花き研究部門 安濃野菜研究拠点一般公開 「あなたの知らない野菜の世界」

【開催日時】 2019年11月9日(土)10時から15時（受付終了 14時30分）

【開催場所】 安濃野菜研究拠点（三重県津市安濃町草生 360）

駐車場あり

【内容】

1. 研究紹介：(1)野菜遺伝資源の展示、(2)育成品種の展示と試食、(3)植物病害の紹介、

(4)野菜品質・機能の紹介、(5)虫トラップの展示

2. ミニセミナー：(1)「びせいぶつ」って、土の中で何をしているの？

(2)花の色の仕組みについて

3. その他：(1)野菜なんでも相談コーナー、(2)ダイコン新品種プレゼント（先着順）他

【お申込み】 参加無料・申込み不要

【お問い合わせ先】 農研機構 野菜花き研究部門安濃野菜研究拠点(企画連携チーム)

〒514-2392 三重県津市安濃町草生 360

電話 050-3533-3828

.....  
☆官学合同セミナー

(東海農政局)

～あなたが知らない食の世界 研究者が見つめる食の可能性～

【開催日時】 2019年11月24日(日) 13時15分～17時

(受付: 12時45分から)

【開催場所】 愛知学院大学名城公園キャンパス キャッスルホール明倫

(愛知県名古屋市北区名城3-1-1)

会場案内図は下記の開催案内の添付資料をご覧ください。

駐車場は確保されておりませんので、公共交通機関をご利用下さい。

【開催案内: プレスリリース】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/kikaku/191004.html>

【主催】 東海農政局、愛知学院大学、名古屋大学大学院生命農学研究科

【共催】 岐阜大学、椋山女学園大学、中部大学応用生物学部、三重大学大学院生物資源学  
研究科、名城大学農学部

【講演】

1. 「持続可能な食をもとめて ～国連 SDGs と食・農の関係とは?～」

愛知学院大学経済学部 准教授 関根佳恵 氏

2. 「食品と免疫・アレルギー」

名古屋大学大学院生命農学研究科 教授 松田 幹 氏

3. 「コレステロールを低減する食品成分を探る

～特定保健用食品(トクホ)の研究開発に従事して～」

岐阜大学応用生物科学部 シニア教授・教授 長岡 利 氏

【お申込み】 参加費無料、定員200名、申込み締切日は11月20日(水) 17時

インターネット、ファックス又は郵送にてお送り下さい(詳しくは上記の  
開催案内をご覧ください)。

【お問い合わせ先】 東海農政局企画調整室 担当: 横山、角田、星川

代表: 052-201-7271 (内線 2318)

ダイヤルイン: 052-223-4610

FAX 番号: 052-219-2673  
.....  
.....

☆植物ゲノム編集技術ワークショップ

(農研機構)

ゲノム編集がどのような技術で、どんな作物改変ができるのか、規制や知財の問題等につ  
いての情報を得ることができます。

【開催日時】 2019年11月29日（金） 13:30～16:30

【開催場所】 コンベンションセンターAP 名古屋、名駅（IMAI ビル）8階（B+C）会議室

（名古屋市中村区名駅 4-10-25）

【プログラム】

- ・ 開会挨拶・資料確認・進め方など
- ・ ゲノム編集農作物の開発状況
- ・ 植物ゲノム編集の実際の手順
- ・ ゲノム編集農作物の規制について
- ・ 植物ゲノム編集の知財について
- ・ 質疑応答
- ・ 閉会挨拶

【開催案内】 <https://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2019/07/131516.html>

【参加申込み方法】 上記の開催案内の URL にある「申込サイト」からお申込み下さい。

なお、上記開催案内に「チラシ」、「申込フォーム」もごさいます。

申込順で定員になり次第締切りとなります。

【お問い合わせ】 農研機構 企画戦略本部 新技術対策室（担当：吹野、大田）

電話：029-838-7115

E-mail：[kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp](mailto:kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp)

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019年度競争的研究資金等について

☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム

（JST）

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

公募情報：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10% 返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 2 回目締切 11 月 29 日、2020 年 3 月 31 日（第 3 回目締切）

.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：2019 年 11 月 29 日（第 2 回目締切）、2020 年 3 月 31 日（第 3 目締切）

.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：通年募集、2019 年 11 月 29 日（第 2 回目締切）、2020 年 3 月 31 日（第 3 回目締切）

.....

☆＜民間の競争的研究資金＞

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/news/public#sec02>

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆米麦・大豆関係

○健康機能性を有する  $\beta$ -グルカンを多く含み、食味良好なもち性の大麦新品種「キラリモチ」

最近、食の健康志向が高まっています。そこで、旧独立行政法人農研機構中国近畿農業研究センターでは、食物繊維が豊富で、健康によい麦ご飯を広めるために、大麦新品種の開発を行い、平成 21 年に品種登録の出願をしました。本品種の特徴は、(1)炊飯後、時間が経っても白さが保たれる、(2)炊くと粘りがあり、柔らかく、もちもち感がある、(3)  $\beta$ -

グルカン（水溶性食物繊維）が多く含まれている。β-グルカンは免疫力アップなど様々な健康機能が有るとされています。「キラリモチ」は、北海道から鹿児島県まで栽培が可能であり、2017年度に茨城県で奨励品種となり、翌年度には5道県で産地品種銘柄となっており、推定作付面積が350ha以上と拡大しています。

- ・農研機構 HP：研究成果パンフレット「キラリモチ」

～褐変しにくく、食味が優れるもち性の二条裸麦～

[https://www.naro.affrc.go.jp/project/results/research\\_digest/digest\\_kind/digest\\_wheat/027190.html](https://www.naro.affrc.go.jp/project/results/research_digest/digest_kind/digest_wheat/027190.html)

- ・農研機構 HP：もち性大麦品種「キラリモチ」の魅力！

[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/warc\\_man\\_kirarimochipannfu201808a1.pdf](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/warc_man_kirarimochipannfu201808a1.pdf)

- ・NARO Technical Report No.1(2019)、p.16-19.「健康機能が期待できるもち性大麦品

種の育成と進む普及」

○「フクユタカ」に難裂莢性を導入した大豆新品種「フクユタカ A1 号」

大豆の単収が低い原因の1つに、収穫時の裂莢による損失が挙げられます。収量ロス は 収量の10%以上となるケースもあるとされています。現在、豆腐原料等として普及している大豆品種「フクユタカ」についても刈り遅れ等により収穫ロスが生じることがあります。しかし、生育特性、品種特性、加工特性が「フクユタカ」と同等とされる「フクユタカ A1 号」が農研機構作物研究所で育成され、この品種を栽培することにより、収穫時の裂莢などによる収量ロスが大幅に低下します。愛知県農業総合試験場においても栽培適性試験が実施され、「フクユタカ A1 号」が愛知県の奨励品種に採用されました。

- ・農研機構 HP：次世代作物開発センター 2017年の成果情報

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th\\_laboratory/nics/2017/17\\_034.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/4th_laboratory/nics/2017/17_034.html)

- ・NARO Technical Report No.1(2019)、p.20-23.「大豆難裂莢性品種群の育成と普及」

- ・愛知県農業総合試験場 HP：「フクユタカ A1 号」の導入による 収量の安定化

<http://www.maff.go.jp/tokai/seisan/shinko/daizu/genchi/attach/pdf/20171110-1.pdf>

☆病害虫関係

○冬春トマト栽培の灰色かび病防除における 結露制御装置の活用

トマトの灰色かび病は、施設栽培トマトにおいては施設内が高湿度となる条件が続くと発病が急激に増加し、収穫量に大きな影響を及ぼすことがあります。また、発病後に薬剤散布しても十分な防除効果が得られないことが多く、一方、過度に薬剤に依存した防除は

抵抗性の灰色かび病菌を発生させるおそれがあります。このため、今回、加温により結露を防止する対策を行ったところ、灰色かび病の発生が抑制されました。最も効果的に灰色かび病の発生を抑えたのは、加温により結露を防止する条件を整え、更に適切な薬剤防除を組み合わせた場合でした。

・岐阜県農業技術センターHP：平成30年度研究成果

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

## ☆畜産関係

○肉用名古屋コーチンへの「みりん粕」の給与技術を開発

愛知県農業総合試験場では、食品加工副産物として排出されるみりん粕を有効利用するために、肉用名古屋コーチンへのみりん粕の給与技術を開発しました。みりん粕を配合飼料と同時に肉用名古屋コーチンに給与したところ、配合飼料のみを給与した場合と比べて増体量と飼料要求率に改善がみられました。鶏肉の官能評価でもみりん粕を給与した方が食味に優れており、さらに、飼料費が低減でき、収益増加も期待できることが分かりました。

・愛知県農業総合試験場 HP：2018年の10大成果

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/284083.pdf>

.....

## 編集後記

まだまだ日中は蒸し暑さを感じていますが、朝晩は大変過ごしやすくなってきて、少しずつ秋を感じるようになってまいりました。いかがお過ごしでしょうか。

今年の5月に経験したことですが、久しぶりにふらりと京都へ行ってきました。目的地は嵐山、嵯峨野方面です。京都駅前からバスに乗ろうと思い、バス停に向かい始めましたが、観光客が大変多くて、とてもバスに乗れるような状況ではありませんでした。それで結局、その日は嵐山方面に行くことは諦めて、京都駅前で食事をして帰宅しました。とても残念なことでした。その日以後はもう二度と京都に観光で行く気がしないくらいに困惑した経験をしました。もう少しゆっくりと味わうことができるようになったらまた出かけて見たいと思います。

さて、佐滝剛弘（さたき よしひろ）著「観光公害-インバウンド4000万人時代の副作用」（祥伝社：2019年7月10日初版第1刷発行）を読みました。著者は京都に住んでおられ、京都光華女子大学キャリア形成学部で「観光学」を教えておられます。

「観光公害」とは、例えば市民の足である市営バスが、観光客の増加により地元の買い物客や通勤・通学者などの生活者を目的地に運ぶという本来の果たせないような状況を言

い、観光学の世界では「オーバーツーリズム」と呼ばれ、持続可能な観光に大きなマイナスとなっているとしています。本書では、日本のみならず世界各地での観光公害の実態と様々な改善の取組みが紹介されています。本書の最後に著者は、「交流人口」という視点を紹介して観光公害解決の可能性を提示しています。それは、観光客が訪れた場所にある種の好意や敬意を抱き、できるだけ現地の人と交流をしたり、最低限地元住民に迷惑をかけないという意識を持つ。受け入れ側も二度と来ない観光客として接するのではなく、また来てもらえる可能性のある「交流人口予備軍」として遇する。観光することで異なった文化や自然に触れることができ、訪問先で生活する人々に思いを馳せることから解きほぐせるのではないか。こうした関係を高めて「一見の観光」から将来の交流へつながっていく可能性が生まれるとしています。

観光公害の例について、テレビニュースや新聞報道などで色々と報道されています。そろそろ観光の質を転換していくことが必要と思われます。

(中山博導 CD 記)

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年11月11日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第179号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
  - ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
  - 2019年度アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿
  - (2020年1月28日～29日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆官学合同セミナー (11月24日)
  - ☆東海農政局・(公財)中部圏社会経済研究所シンポジウム (11月28日)
  - ☆食品安全セミナー (11月29日)
  - ☆植物ゲノム編集技術ワークショップ (11月29日)
  - ☆しげんさいせいネット 第3回セミナー (12月2日)
  - ☆三重県農業研究所 植物工場三重実証拠点 研修会 (12月3日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
  - 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
  - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
  - NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
  - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆1◆2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿  
～農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進及び農業への理解促進～

【開催目的】 地域における大学、民間企業、公設試験場、独立行政法人等、多数の研究開発のシーズや成果を募り展示するとともに、出展者及び来場者の相互の交流を図ります。

【開催日時】 2020年1月28日10時～1月29日16時30分

【開催場所】 ウィンクあいち 6階展示場（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

【主催】 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課 産学連携室

NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

NPO法人近畿アグリハイテク

【共催】 東海4県農業関係試験研究機関

【開催概要】

開会式及び成果発表：28日 10時～12時

ブース展示： 28日 12時～17時 29日 10時～16時30分

ポスター発表： 28日 12時～13時（予定）

29日 11時～12時（予定）

企画展示：東海・近畿地域のスマート農業の取り組み

内容：(1)スマート農業実証地の紹介

(2)関連する研究の紹介

28日10時～29日16時30分

相談コーナー：期間中、随時受付にお申し出ください。

農林水産省産学連携支援コーディネーターが対応致します。

合同開催：東海4県農業関係試験研究機関（29日午後）

企画イベント：フラワーセミナー in 東海 ～日本の花文化と花きの最新研究～（仮称）

同時開催：「スマート農業を目指す先端技術フェア in 愛知（1月28日～29日）

会場：名古屋国際センター

主催：農林水産技術会議事務局

【お問合せ先】 NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局（大石、道村）

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（＊を@に書き換えてください）

## ◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆官学合同セミナー

（東海農政局）

～あなたが知らない食の世界 研究者が見つめる食の可能性～

【開催日時】 2019年11月24日（日）13時15分～17時

（受付：12時45分から）

【開催場所】 愛知学院大学名城公園キャンパス キャッスルホール明倫

(愛知県名古屋市北区名城 3-1-1)

会場案内図は下記の開催案内の添付資料をご覧ください。

駐車場は確保されておりませんので、公共交通機関をご利用下さい。

【開催案内：プレスリリース】

<http://www.maff.go.jp/tokai/press/kikaku/191004.html>

【主催】東海農政局、愛知学院大学、名古屋大学大学院生命農学研究科

【共催】岐阜大学、椙山女学園大学、中部大学応用生物学部、三重大学大学院生物資源学研究科、名城大学農学部

【講演】

1. 「持続可能な食をもとめて ～国連 SDGs と食・農の関係とは?～」

愛知学院大学経済学部 准教授 関根佳恵 氏

2. 「食品と免疫・アレルギー」

名古屋大学大学院生命農学研究科 教授 松田 幹 氏

3. 「コレステロールを低減する食品成分を探る

～特定保健用食品（トクホ）の研究開発に従事して～」

岐阜大学応用生物科学部 シニア教授・教授 長岡 利 氏

【お申込み】参加費無料、定員 200 名、申込み締切日は 11 月 20 日（水）17 時

インターネット、ファックス又は郵送にてお送り下さい（詳しくは上記の開催案内をご覧ください）。

【お問い合わせ先】 東海農政局企画調整室 担当：横山・角田・星川様

代表：052-201-7271（内線 2318）

ダイヤルイン：052-223-4610 FAX 番号：052-219-2673

.....

☆東海農政局・（公財）中部圏社会経済研究所シンポジウム

～スマート農業の伸展がもたらす中部圏の新しい農業と産業の姿～

【開催日時】2019 年 11 月 28 日（木）13：30～16：40

【開催場所】JP タワー名古屋 ホール&カンファレンス（KITTE 名古屋 3 階）

（愛知県名古屋市中村区名駅一丁目 1 番 1 号 KITTE 名古屋 3 階）

【開催案内】

[http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan\\_kankyo/190902.html](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/190902.html)

【案内チラシ（申込書）】

[http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan\\_kankyo/attach/pdf/190902-1.pdf](http://www.maff.go.jp/tokai/press/seisan_kankyo/attach/pdf/190902-1.pdf)

【プログラム】

1. 開会挨拶 農林水産省東海農政局 局長 富田育穂 氏

2. 基調講演

・スマート農業技術の現状と展開方向

農研機構理事（研究推進担当） 寺島一男 氏

3. パネリストスピーチ

- ・若林 毅 氏 富士通(株) スマートアグリカルチャー事業本部エキスパート
- ・浅井雄一郎 氏 (株)浅井農園 代表取締役
- ・下村堅二 氏 JA 西三河きゅうり部会
- ・水谷伸司 氏 一般社団法人日本食農連携機構 事務局長

4. パネルディスカッション

- ・モデレーター：生源寺眞一 氏 福島大学食農学部長・教授
- ・パネリスト：寺島一男氏、若林 毅氏、浅井雄一郎氏、下村堅二氏、水谷伸司氏

5. 閉会挨拶 公益社団法人 中部圏社会経済研究所 代表理事 丹羽 漸 氏

【主催】農林水産省

【参加申込み】参加費無料、申込締切日は11月8日（金）。160名の定員で締切となります。お申し込みは、上記の「案内チラシ（申込書）」を印刷し、必要事項をご記入の上、FAX 又はメールにてお送り下さい。

.....

☆食品安全セミナー

（東海農政局）

【開催日時】2019年11月29日（金）13：30～16：00

【開催場所】名古屋能楽堂 会議室

（愛知県名古屋市中区三の丸 1-1-1）

【主催】東海農政局

【プレスリリース】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/191029.html>

【チラシ】<http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/191029-1.pdf>

【内容】

第1部 13：30～14：05

「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 職員

第2部 14：20～15：50

「食品の製造・加工工程で生成する化学物質と食品の安全」

農林水産省消費・安全局 食品安全政策課 課長補佐 堀部敦子 氏

【参加者募集】募集人数 70名

（申込み多数によりご参加いただけない場合は、連絡があります）

参加費：無料 対象：一般消費者

【申込み】申込期限 11月27日（水）17時

参加申込書は上記「プレスリリース」の URL にある申込様式に記入し、インターネットで送信、あるいは上記の「チラシ」にある参加申込書に必要事項を

ご記入の上、FAXでお申し込み下さい。

【お問い合わせ先】消費・安全部消費生活課

担当者：森、奥川、青木様

代表：052-201-7271（内線2810）

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX 番号：052-220-1362

.....

☆植物ゲノム編集技術ワークショップ

（農研機構）

ゲノム編集がどのような技術で、どんな作物改変ができるのか、規制や知財の問題等についての情報を得ることができます。

【開催日時】2019年11月29日（金）13：30～16：30

【開催場所】コンベンションセンターAP 名古屋・名駅（IMAI ビル）8階（B+C）会議室  
（名古屋市中村区名駅4-10-25）

【プログラム】

- ・開会挨拶・資料確認・進め方など
- ・ゲノム編集農作物の開発状況
- ・植物ゲノム編集の実際の手順
- ・ゲノム編集農作物の規制について
- ・植物ゲノム編集の知財について
- ・質疑応答
- ・閉会挨拶

【開催案内】<https://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2019/07/131516.html>

【参加申込み方法】上記の開催案内の URL にある「申込サイト」からお申込み下さい。

なお、上記開催案内に「チラシ」、「申込フォーム」もごございます。

申込順で定員になり次第締切りとなります。

【お問い合わせ】農研機構 企画戦略本部 新技術対策室（担当：吹野、大田）

電話：029-838-7115

E-mail：[kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp](mailto:kenkyu-suishin@naro-affrc.go.jp)

.....

☆しげんさいせいネット 第3回セミナー

【開催月日】2019年12月2日（月） 14時～17時

【開催場所】名古屋クラウンホテル 6階 「長良」

（愛知県名古屋市中区栄1-8-33） 地図 別紙申込書参照

【開催案内】 <http://shigen-saisei.net/2019/1028-150554.html>

【内容】

- (1) 「J-クレジット制度 カーボン・オフセットの最新動向」  
株式会社ウェイストボックス 代表取締役 鈴木修一郎氏
- (2) 「省エネ・制エネに関する補助金・助成金の活用について」  
脱炭素化支援株式会社 代表取締役 松島康浩氏

【参加申込】参加費：会員無料・会員外 1,000 円（資料作成等の代金）

参加申込み：11月15日（金）までに、上記の開催案内の URL  
にある申込書にご記入の上、下記あてにお送り下さい。

【問合せ先】しげんさいせいネット事務局

TEL：052-703-2108 E-mail：[shigensaisei.net2003@gmail.com](mailto:shigensaisei.net2003@gmail.com)

.....

☆2019年度 三重県農業研究所 植物工場三重実証拠点 研修会

～栽培技術に関する理論と実際・ケーススタディとディスカッション（第2回）～

【開催日時】 2019年12月3日（火）13:30～15:00

【開催場所】三重県農業研究所 植物工場三重実証拠点 研修室  
（松阪市嬉野川北町 530）

【開催案内】 <http://www.pref.mie.lg.jp/NOUGI/HP/m0132900040.htm>

【内容】

- (1) *Pythium* 菌、生活様式が分かると防除の視点が見えてくる  
講師：国立大学法人 岐阜大学 流域圏科学研究センター 教授 景山幸二氏
  - (2) 三重県におけるトマト灰色かび病菌の薬剤抵抗性について  
講師：三重県農業研究所 主査研究員 川上 拓氏
- なお、終了後に植物工場の見学が行われます。

【参集範囲】施設園芸およびトマト養液栽培管理を行う農業者

【主催】三重県農業研究所

【参加申込】定員：20名（先着順）、参加費なし

申し込み方法：申込書が、上記の開催案内の URL にありますので、ご記入の上、11月20日（水）までに FAX（0598-42-1644）又は下記の電子メールにより、三重県農業研究所野菜園芸研究課 西村様までご送付下さい。

E-mail：[plant-fb@pref.mie.lg.jp](mailto:plant-fb@pref.mie.lg.jp)

### ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下

記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は次の通りです。 <http://www.jataff.jp/>

---

#### ◆ 4 ◆ 2019 年度競争的研究資金等について

---

☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10% 返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 2 回目締切 11 月 29 日、第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日）

.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：第 2 回締切 2019 年 11 月 29 日、第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：第 2 回目締切 2019 年 11 月 29 日、第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....

☆＜民間の競争的研究資金＞

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/news/public#sec02>

---

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

### ☆米麦・大豆関係

○病気に強い水稻新品種「中部 138 号」が愛知県の奨励品種に採用されました

愛知県農業総合試験場が 2017 年 3 月に品種登録した水稻新品種「中部 138 号」が本年 10 月に愛知県の奨励品種に採用されました。本品種は、良食味米として知られる「ミネアサヒ」と同等の食味を有し、中山間地域で多発生する「いもち病」に極めて強く、更に、イネ縞葉枯病にも抵抗性を有することが特長とされています。2021 年度から生産開始される予定のようです。

・愛知県 HP :

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keiei/syoureihinsyu138.html>

### ☆病害虫関係

○冬春トマト栽培の灰色かび病防除における結露制御装置の活用

トマト灰色かび病は、特に冬春トマトのビニールハウス栽培において、天候不順などにより高湿度条件が続くと発病が急激に増加し被害が発生することが知られています。岐阜県農業技術センターでは、本病を効果的に防除するために、結露センサーによる暖房機制御と薬剤散布を組み合わせた防除試験を実施しました。その結果、施設内の多湿条件を改善して、灰色かび病の発病リスクを低下させるとともに、薬剤耐性菌の発達リスクの低い薬剤の散布を併用することで、安定した高い防除効果が得られ、持続性の高い防除対策が実現しました。

・岐阜県農業技術研究所 HP : 平成 30 年度研究成果

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

### ☆畜産関係

○機能性成分を多く含む三重県産豚肉

三重県畜産研究所は、 $\alpha$ -リノレン酸に富むアマニ油脂肪酸カルシウムを豚用飼料に 3% 添加し、肥育豚に出荷前 2 週間これを給与することにより、通常の飼料で肥育した豚と比べ、 $\alpha$ -リノレン酸の割合が 3 倍となり、 $n-6/n-3$  比率も 18 から 6 へ改善されることを明らかにしました。 $\alpha$ -リノレン酸は、アマニ油、エゴマ油、シソ油に多く含まれ、EPA、DHA 等の原料ともなり、血栓症や心筋梗塞、アレルギー等の発症を抑制する作用等があることが知られています。また、近年の食生活においては、脂肪の摂取はリノール酸等の  $n-6$  の脂肪酸の摂取量が増加傾向にあることから、 $n-6/n-3$  比率のアンバランスが生じており、

このことも成人病等の要因の一つになっている可能性があると言われています。現在、 $\alpha$ -リノレン酸を多く含む豚肉が「三重豚」としてブランド化されています。

・三重県畜産研究所 HP : <http://www.pref.mie.lg.jp/tikuken/hp/25538025121.htm>

.....

#### 編集後記

10月に入り、ラグビーのワールドカップの決勝が行われましたが、日本チームが史上初めてベスト8入りして大いに盛り上がりました。この間、台風19号が襲来し、記録的な豪雨災害を与え、東北、関東甲信越地方の多くの河川が氾濫・溢水し、亡くなられた方、被災された方も多く、また、農作物被害も甚大となりました。慎んで哀悼の意を表しますとともにお見舞い申し上げます。地球温暖化の下で大型化する台風は、大河の氾濫、バックウォーター現象、内水氾濫、ダムの緊急放流の有り方等、様々な課題を残しました。

ところで、最近読んだ本に、日本環境化学会編著「地球をめぐる不都合な物質～拡散する化学物質がもたらすもの～」(2019年発行、講談社ブルーバックス)があります。本書は、人畜に悪影響を及ぼす化学物質、すなわち、水銀、ヒ素、鉛、カドミウム等の重金属、POPs(残留性有機汚染物質の略: DDT、PCB、HCH、ダイオキシン等)が地域的あるいは地球上に広く拡散している状況と健康被害について述べています。また、最近話題のマイクロプラスチックが海洋で急増・蓄積しつつあり、その表面に疎水性の有害物質が吸着しやすいため、生物濃縮を促進するとされています。更に、PM2.5についても取り上げられています。PM2.5とは、空気中に浮遊している直径が $2.5\mu\text{m}$ 以下の粒子の総称で、様々な発生源から排出され、種々の化学成分で構成されている混合物とされています。吸い込むことによる呼吸器疾患など様々な悪影響が知られています。地球をめぐる「不都合な化学物質」は、目に見えず、薄く広く拡がっていて、その評価が人の価値観によって左右されるという特徴があります。しかし、最近の研究では、人に対する悪影響は、発育途中の胎児ないし乳幼児において最も顕在化しやすいことが明らかになってきました。微量物質を計測する計器の発達もこのような学問分野の発展に貢献しています。今後、微量な化学物質による免疫機構の攪乱など、様々な分野での影響解明が期待されます。

本書は、各分野の専門家により分かりやすく書かれているので、地球規模での「不都合な化学物質」について、改めて正確な知識を得、理解を増すことができると思われます。

(松井正春 CD 記)

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

2019年12月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第180号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\*《もくじ》\*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
- 2019年度アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿
- (2020年1月28日～29日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆食品安全セミナー (12月13日)
- ☆2019年度岐阜大学応用生物科学部連続講座～野生動物を知る～(12月14日)
- ☆ヤギから考える地域の未来と生物多様性地域フォーラム (12月15日)
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 12月度研究会 (12月19日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆ 1 ◆ 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿  
～農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進及び農業への理解促進～

【開催目的】 地域における大学、民間企業、公設試験場、独立行政法人等、多数の研究開発のシーズや成果を募り展示するとともに、出展者及び来場者の相互の交流を図ります。

【開催日時】 2020年1月28日10時～1月29日16時30分

【開催場所】 ウィンクあいち 6階展示場（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

【主催】 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課 産学連携室

NPO法人東海地域生物系先端技術研究会、NPO法人近畿アグリハイテク

【共催】東海4県農業関係試験研究機関

【開催概要】

開会式及び成果発表：28日 10時～12時

ブース展示：28日 12時～17時 29日 10時～16時30分

ポスター発表：28日&29日 12時～13時（予定）

企画展示：東海・近畿地域のスマート農業の取り組み

内容：(1)スマート農業実証地の紹介

(2)関連する研究の紹介

28日10時～29日16時30分

相談コーナー：期間中、随時受付にお申し出ください。

農林水産省産学連携支援コーディネーターが対応致します。

合同開催：東海4県農業関係試験研究機関

（1月29日 13：00～16：00）

企画イベント：「フラワーセミナー in 東海～日本の花文化と花きの最新研究～」

内容：(1)各県開発の品種・技術の説明 13：10～14：10

東海4県開発の花きの品種・技術の最前線

(2)特別講演 14：10～15：20

「江戸時代の園芸文化から現在の園芸を考察する」

講師：名古屋園芸株式会社 代表取締役 小笠原 誓氏

（NHK「趣味の園芸」など園芸情報番組に多数出演）

(3)特別展示

「雑花園文庫」所蔵 花が描かれた浮世絵展示

（小笠原誓氏による解説ツアー）

定員：200名（事前予約制・先着順）

同時開催：「スマート農業を目指す先端技術フェア in 愛知（1月28日～29日）

会場：名古屋国際センター

主催：農林水産技術会議事務局

【お問合せ先】NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局（大石、道村）

TEL&FAX：052-789-4586

E-mail：bio-npo2\*y4.dion.ne.jp（\*を@に書き換えてください）

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食品安全セミナー

(東海農政局)

【開催日時】 2019年12月13日(金) 13:30～15:45 (13:00 から受付)

【開催場所】 三重県生涯学習センター 2階 視聴覚室

(三重県津市一身田上津部田 1234)

【主催】 東海農政局

【プレスリリース】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/191011.html>

【チラシ】 <http://www.maff.go.jp/tokai/press/seikatsu/attach/pdf/191011-1.pdf>

【内容】

第1部 13:35～14:00

「食品安全と行政の取組」

東海農政局 消費・安全部 職員

第2部 14:00から15:40 (途中休憩あり)

「三重県の食状況について」

講師：三重短期大学生活科学科 准教授 駒田亜衣 氏

【参加者募集】 募集人数 80名、参加費：無料、対象：一般消費者

(事前申し込み制、申込み多数によりご参加いただけない場合は、連絡があります)

【申込み】 申込期限 12月11日(水) 17:00

参加申込書は上記「プレスリリース」の URL にある申込様式に記入し、インターネットで送信、あるいは上記の「チラシ」にある参加申込書に必要事項をご記入の上、FAX でお申し込み下さい。

【お問い合わせ先】 消費・安全部消費生活課

担当者：森、奥川、青木様

代表：052-201-7271 (内線2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX 番号：052-220-1362

.....

☆2019年度連続講座「野生動物を知る」

(岐阜大学応用生物科学部)

【開催日時】 2019年12月14日(土) 13:00～15:00

【開催場所】 岐阜大学 全学共通教育棟 102番教室

地図：下記の「開催チラシ」をご覧ください。

【主催】 岐阜大学 応用生物科学部 附属野生動物管理学研究センター (岐阜市柳戸 1-1)

【開催案内】 <http://www.abios.gifu-u.ac.jp/news/2019/11/2019110601s.html>

【開催チラシ】 <http://www.abios.gifu-u.ac.jp/news/file/2019110601s01.pdf>

【内容】 第6回 効果的・効率的アライグマ防除対策を目指して

～外来種管理のキーポイント～

北海道大学大学院 教授 池田 透 氏

【申し込み】(1)参加希望回 (2)氏名 (3)住所 (4)所属 (5)連絡先をご記入の上、メールあるいは FAX にて下記へお申込みください。申込みの締切は、12 月 12 日 (木)。

※当日参加も可能ですが、配布資料がない場合があります。

【申込/問合わせ先】岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター  
寄附研究部門「鳥獣管理の教育と普及」  
Tel&Fax: 058-293-3416 (担当：森部様)

.....

☆ヤギから考える地域の未来と生物多様性地域フォーラム

【開催日時】2019年12月15日(日) 13:30～16:30  
(受付: 12:30～)

【開催場所】新城市つくで交流館 (愛知県新城市作手高里縄手上 26 番地 1)

【チラシ】<https://ecoyaginw.wixsite.com/aichi-ecoyagi/blog>

【主催】あいちエコヤギネットワーク

【協賛】新城設楽生態系ネットワーク協議会

【後援】愛知県、新城市

【内容】

- ・基調講演：岡田 正 氏 (家畜改良センター茨城牧場長野支場)
- ・取組発表：今井 崇 氏 (ヤギ野ファーム)
- ・取組発表：後藤 宝 氏 (長野県下伊那郡売木村)
- ・取組発表：岡井純子 氏 (東邦ガス株式会社 知多製造部)
- ・パネルディスカッション：ヤギを取り巻く最近の状況について

【申込み】参加費無料 (事前申し込みが必要)。どなたでも参加できます。

上記ホームページ上部の「イベント申込み」欄をクリックして、インターネット、又は電子メール、ファックスでお申込み下さい。

【申込み先】あいちエコヤギネットワーク事務局 今井様

E-mail: [ecoyagi.nw@gmail.com](mailto:ecoyagi.nw@gmail.com)

電話&FAX; 0536-38-1533

.....

☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 12 月度研究会

【開催日時】2019年12月19日(木) 14:00～17:00

【開催場所】名古屋市市民活動推進センター 集会室

(名古屋市中区栄三丁目 18 番地 1) 地図は下記の開催案内を参照。

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6 階西側

【開催案内】

<https://www.crn2011.jp/%E8%A1%8C%E4%BA%8B%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85/>

【主催】中部異業種間リサイクルネットワーク協議会

【内容】

- ・第一部 水環境を維持するための環境測定  
株式会社エステム調査分析センター 梶田佳輝 氏
  - ・第二部 行政施策と関係する施設の見学と SDGs のビジネス視点の情報収集  
一般社団法人中部圏イノベーション推進機構 片岡成公 氏
- 【参加申込み】 参加費 会員は無料、会員以外は 1,000 円（学生 500 円）  
事前申込み 定員 60 名（当日受付は、会場に席がある場合のみ入室可）
- 【懇親会】 事前受付。定員 25 名。会費 3,500 円。定員になり次第締め切られます。  
会場は「モダン和食 Goza（互座）」  
（名古屋市中区栄 3 丁目 23-14 シティライフ栄 B1F）  
講演会場から徒歩 1 分（地図は、上記の開催案内にあります）。

◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は次の通りです。 <http://www.jataff.jp/>

◆ 4 ◆ 2019 年度競争的研究資金等について

☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10% 返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：第3回締切 2020年3月31日

.....

☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後10年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：第3回締切 2020年3月31日

.....

☆＜民間の競争的研究資金＞

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆米・麦・大豆関係

○高β-グルカン含量の“もち麦”「フクミファイバー」を開発

食生活における健康志向の高まりから“もち麦”の需要が増加し、健康機能性成分として大麦β-グルカンの知名度が上りつつありますが、よりβ-グルカン含量が多い大麦品種が求められています。そこで、農研機構西日本農業研究センターでは、アミロースフリーのもち性遺伝子とアミロース含量を高める *am1* 遺伝子を合わせて持つことによりβ-グルカン含有率及び整粒収量が高く、更に、*ant28* 遺伝子を導入して、加熱後の褐変が起こりにくい特性を持たせました。この新品種「フクミファイバー」は、整粒収量が裸麦の基幹品種「イチバンボシ」よりも1割以上多収となっています。

・農研機構ホームページ：プレスリリース 研究成果

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/warc/132944.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/132944.html)

☆果樹関係

○早生で良食味のナシ新品種「愛知梨3号」を開発 ～栽培容易で強い甘み～

愛知県農業総合試験場と農研機構は、早生で良食味のナシ新品種「愛知梨3号」を共同開発しました。本品種は、栽培が容易で、主要品種「幸水」よりも甘みが強く、「豊水」よりも酸味が少ないという特徴を有しています。本品種は2018年に品種登録が完了し、2020年から苗木が販売される予定となっています。

・愛知県ホームページ：早生で良食味のナシ新品種「愛知梨3号」を開発しました。

～栽培容易で強い甘み～

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/nogyo-keiei/nasinosinhinsyu.html>

・愛知県ホームページ：本品種に関する参考資料

[https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/253731\\_850045\\_misc.pdf](https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/253731_850045_misc.pdf)

#### ☆獣害関係

#### ○運搬、設置が容易なシカ用簡易大型檻の開発

近年、中山間地域では獣害が増加し、その対策に苦慮している状況にあります。シカを檻によって捕獲する場合に、同じ場所で捕獲を続けていると、捕獲効率が落ちる傾向があるので、檻を移動させる必要があります。このため、捕獲従事者の減少・高齢化という現実を踏まえ、運搬と設置が容易なシカ専用の大型檻が、三重県農業研究所、(株)試作サポーター四日市、兵庫県立大学により共同開発され、特許出願されました。このシカ用簡易大型檻は、2019 年度に商品化される予定です。

・三重県農業研究所ホームページ：

<http://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000855775.pdf>

・農林水産省ホームページ：

[http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuuru/30\\_ict\\_seika/attach/pdf/ict\\_kenkyu\\_seika-2.pdf](http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuuru/30_ict_seika/attach/pdf/ict_kenkyu_seika-2.pdf)

.....

#### 編集後記

寒気が少しずつ厳しくなってきた、いよいよ今シーズンに入って初雪の降る所が目立ち始めてきました。早朝には路面が凍結しているところもあるので、車の運転や歩行の際には十分に気をつけてください。

アフガニスタン東部のジャララバードで、人道支援に取り組んでこられた NGO「ペシャワール会」現地代表で医師の中村哲さんが銃撃されて死亡したと報道されました。干ばつが続いて農業に深刻な影響が出ているため、復興に向けて灌漑農地を何とか取り戻そうとされていたということで大変残念に思います。冥福をお祈りします。

さて、農業現場でのさまざまな動きについて述べられている、川内イオ著「農業新時代～ネクストファーマーズの挑戦～」(文春新書：2019 年 10 月 20 日第 1 刷発行)を読みました。著者の川内イオ氏はフリーライターをされており、「規格外の稀な人」を追う奇人ハンターとして全国を巡っておられ、仕事と生き方の多様性を伝えておられます。

本書では、農業に関する分野で独自のアイデアと先端技術を用いて、希少かつ高品質の商品やサービスを生み出しておられる変革者や彼らの生き方、働き方として 10 人の例が紹介されています。その例の一つに、「世界一」の落花生で作られた究極のピーナッツバターを地元スーパーや大手百貨店を始め、ピーナッツバターの本場であるアメリカにも進出して成果をあげておられる「杉山ナッツ」が紹介されています。「杉山ナッツ」は静岡県浜松市にあり、荒れ放題の耕作放棄地において落花生の在来種「遠州半立ち」を栽培してピー

ナッツバターを加工販売されています。「世界で一番美味しいピーナッツバターを作りたいから、世界で一番良いピーナッツを作ろう」と考えた杉山さんは、何年も放置されて農薬がきれいに抜けた農地こそ、望むところだったそうです。荒れ地を農地に戻す為に、1904年当時の手法を参考にされる等々の多くの工夫を重ねられました。「遠州小落下」「無農薬・無添加」のキーワードと香ばしい濃厚なうま味を評価されて「杉山ナッツ」の評判が広まって、生産開始から4年で2万個を販売されているということです。

「地元の浜松周辺の耕作放棄地を農地に変え、町の景色を変え、高齢者でも子育て中のママも前向きに働ける仕事場をつくる。そして、浜松に住む人の幸福度を向上させていく。それができるのが農業であり、ものづくりである。」と述べておられます。改めて農業の奥深さと可能性が感じられ、新鮮な刺激を受けました。

(中山博導 CD 記)

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>

2020年1月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第181号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2019年度「知」の集積による産学連携推進事業
  - ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
  - 2019年度アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿
  - (2020年1月28日～29日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 新春講演会 (1月16日)
  - ☆食品安全セミナー (1月24日)
  - ☆しげんさいせいネット 総会・記念講演会 (2月5日)
  - ☆園芸作物生産現場におけるデータ駆動型農業推進セミナー (2月7日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」及び「スマート農業加速化実証プロジェクト」 (農研機構)
  - ☆2020年度イノベーション創出強化研究推進事業 (生研支援センター)
  - ☆合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策のうち林業分野における新技術推進対策 (林野庁)
  - ☆2020年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
  - ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
  - 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
  - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
  - ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
  - NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
  - ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆1◆2019年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 アグリビジネス創出フェア in 東海・近畿  
～農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進及び農業への理解促進～

【開催目的】 地域における大学、民間企業、公設試験場、独立行政法人等、多数の研究開発のシーズや成果を募り展示するとともに、出展者及び来場者の相互の交流を図ります。

【開催日時】 2020年1月28日10時～1月29日16時30分

【開催場所】 ウィンクあいち 6階展示場（名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

【主催】 農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究推進課 産学連携室

NPO法人東海地域生物系先端技術研究会、NPO法人近畿アグリハイテク

【共催】 東海4県農業関係試験研究機関

【開催概要】

開会式及び成果発表：28日 10時～12時

ブース展示： 28日 12時～17時 29日 10時～16時30分

ポスター発表： 28日&29日 12時～13時（予定）

企画展示：東海・近畿地域のスマート農業の取り組み

内容：(1)スマート農業実証地の紹介

(2)関連する研究の紹介

28日10時～29日16時30分

相談コーナー：期間中、随時受付にお申し出ください。

農林水産省産学連携支援コーディネーターが対応致します。

合同開催：東海4県農業関係試験研究機関

（1月29日 13：00～16：00）

企画イベント：「フラワーセミナー in 東海～日本の花文化と花きの最新研究～」

内容：(1)各県開発の品種・技術の説明 13：10～14：10

東海4県開発の花きの品種・技術の最前線

(2)特別講演 14：10～15：20

「江戸時代の園芸文化から現在の園芸を考察する」

講師：名古屋園芸株式会社 代表取締役 小笠原 誓氏

（NHK「趣味の園芸」など園芸情報番組に多数出演）

(3)特別展示

「雑花園文庫」所蔵 花が描かれた浮世絵展示

（小笠原 誓氏による解説ツアー）

定員：200名（事前予約制・先着順）

同時開催：「スマート農業を目指す先端技術フェア in 愛知（1月28日～29日）

会場：名古屋国際センター

主催：農林水産技術会議事務局

【お問合せ先】 NPO法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局（大石、道村）

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食品安全セミナー

(東海農政局)

【開催日時】 2020年1月24日(金) 13:30~16:00 (13:00 から受付)

【開催場所】 名古屋能楽堂 会議室 (愛知県名古屋市中区三の丸 1-1-1)

【主催】 東海農政局

【開催案内】

<https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/index.html>

【チラシ・参加申込書】

<https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/attach/pdf/index-45.pdf>

【内容】

第1部 13:30~14:05

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部 職員

第2部 14:20から15:50

「食品添加物について～名古屋市の取組～」

講師：名古屋市 食品衛生検査所 職員

【参加者募集】 募集人数70名、参加費：無料、対象：一般消費者

(事前申し込み制、申込み多数によりご参加いただけない場合は、連絡があります)

【申込み】 申込期限 1月22日(水) 17:00

参加申込は上記「チラシ」の URLにある申込様式に記入し、インターネット  
で送信、あるいは上記の「チラシ」にある参加申込書に必要事項をご記入の上、  
FAX でお申し込み下さい。

【お問い合わせ先】 代表：052-201-7271 (内線2810)

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX 番号：052-220-1362

(東海農政局 消費・安全部 消費生活課)

.....

☆しげんさいせいネット 総会・記念講演会

【開催日時】 2020年2月5日(木) 15時~19時30分 (受付：14時30分から)

【開催場所】 メルパルク名古屋 (地図は「開催案内」を参照)

【開催案内】 <http://shigen-saisei.net/2019/1220-094226.html>

【総会・記念講演】

第1部 総会（15：00～）

第2部 記念講演（16：15～）

テーマ：SDGs時代の食品ロス対策とフードサプライチェーンの未来

講師：愛知工業大学 経営学部 教授 小林富雄 氏

第3部 懇親交流会（18：00～）

【参加申込み】 申込期限 1月14日（火）必着。

会員は1名まで無料、2人目より一人当たり5千円。オブザーバーは1人当たり5千円。参加申込書は、上記の開催案内をご覧ください。

【お問い合わせ先・返信先】 しげんさいせいネット事務局（担当：長谷川様）

電話：052-703-2108、FAX：052-703-2119

E-mail：tu.hasegawa@gmail.com

.....  
☆園芸作物生産現場におけるデータ駆動型農業推進セミナー

（東海農政局）

【開催日時】 2020年2月7日（金）13時30分から16時15分

（受付：13時から）

【開催場所】 名古屋栄ビルディング 12階 特別会議室

（名古屋市東区武平町 5-1）

会場案内図は下記の「チラシ」を御覧ください。

駐車場は確保してありませんので、公共交通機関等のご利用をお願いします。

【開催案内】 <https://www.maff.go.jp/tokai/press/engei/191225.html>

【チラシ】 <https://www.maff.go.jp/tokai/press/engei/attach/pdf/191225-1.pdf>

【内容】

○基調講演

高知県の「次世代型新施設園芸システムの普及と Society 5.0 に対応する Next 次世代型施設園芸への進化

高知県農業振興部 参事兼農業イノベーション推進課長 岡林俊宏 氏

施設園芸におけるデータ駆動型農業の重要性と普及について

農林水産省生産局園芸作物課 課長補佐 角張 徹 氏

○取組事例紹介

岐阜県における環境制御技術を用いた冬春トマトの施設栽培の取組について

岐阜県西濃農林事務所農業普及課 技術主査 藤田文彦 氏

農業現場におけるドローンリモセン×IoTの活用

～露地野菜での適用事例と今後の可能性～

株式会社スカイマティクス セールスディレクター 伊達卓馬 氏

【参加申込】定員 80 名（申込者多数により御参加いただけない場合のみ、連絡があります）

参加費：無料、対象者：生産者、農業団体、県、市町村等

参加申込は上記の「チラシ」の参加申込書にご記入の上、ファックスで、  
あるいは、「チラシ」にあるインターネット申込によりお申込み下さい。

【お問合せ先】 東海農政局 生産部園芸特産課 電話 052-223-4624（直通）

担当：森、原、名原、半田 様

### ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の URL は次の通りです。 <http://www.jataff.jp/>

### ◆ 4 ◆ 2019 年度および 2020 年度の競争的研究資金等について

☆「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」及び「スマート農業加速化実証プロジェクト」  
（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構

[http://www.naro.affrc.go.jp/project/research\\_activities/laboratory/naro/133299.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/research_activities/laboratory/naro/133299.html)

分野等：

#### 1. スマート農業技術の開発・実証プロジェクト

国際競争力の強化に向け、近年、技術発展の著しいロボット、AI、IoT 等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を加速化するため、現場の課題解決に必要なスマート農業技術を実証する取組や被災地の速やかな復興再生、中山間地域等の条件不利地域の生産基盤を強化する取組、また、シェアリング・リース等のスマート農業技術の導入コスト低減を図る新サービスのモデル実証について、公募を通じて委託する。

#### 2. スマート農業加速化実証プロジェクト

生産者の生産性を飛躍的に向上させるためには、近年、技術発展の著しいロボット、AI、IoT、5G 等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装を図ることが急務であるため、現在の技術レベルで最先端の技術を生産現場に導入・実証する取組や棚田地域の振興に資する取組について、公募を通じて委託する。

公募期間：2019 年 12 月 26 日～2020 年 1 月 31 日

☆2020 年度イノベーション創出強化研究推進事業

<http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/brain/innovation/H30/koubo/R01.html>

分野等：従来の常識を覆す革新的な技術・商品・サービスを生み出していくイノベーションの創出に向け、「知」の集積と活用による研究開発を重点的に推進する提案公募型の研究開発事業「イノベーション創出強化研究推進事業」を推進することとし、公募により研究を委託する。

公募期間：2020 年 1 月 6 日～2 月 4 日

☆合板・製材・集成材国際競争力強化・輸出促進対策のうち林業分野における新技術推進対策 (林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/01koubo\\_3/01mhk0306.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/01koubo_3/01mhk0306.html)

分野等：林業の成長産業化に向けて、林業の枠を越える産業・価値を創出するとともに、生産性向上に資する革新的な新技術の早期の導入を可能にするため、木質新素材の製造技術の実証、林業現場のニーズに応える異分野の技術導入・実証に対する取組に支援を行う。

公募期間：2019 年 12 月 19 日～2020 年 1 月 14 日

☆2020 年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100215.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100215.html)

分野等：我が国の (1) 省エネルギー、新エネルギー、CO2 削減等のエネルギー・環境分野 (エネルギー・環境新技術先導研究プログラム) 及び (2) 新産業創出に結びつく産業技術分野 (新産業創出新技術先導研究プログラム) の中長期的な課題を解決していくために必要となる技術シーズ、特に既存技術の延長とは異なる、2030 年を目途とした持続可能なエネルギー供給の実現や、新産業創出による産業競争力の向上に有望な技術の原石を発掘し、将来の国家プロジェクト等に繋げていく。

公募期間：2019 年 12 月 26 日～2020 年 2 月 28 日

☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%  
返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....  
☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい  
開発を支援する。

公募期間：第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....  
☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企  
業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開  
発について支援する。

公募期間：第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....  
☆＜民間の競争的研究資金＞

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

### ☆野菜関係

#### ○高能率軟弱野菜調整機

農研機構 農業技術革新工学研究センターは、株式会社クボタ及び斎藤農機製作所と共同  
して、ハウレンソウ等の軟弱な葉菜の調整作業を大幅に効率化する調整機を開発しました。  
ハウレンソウの調整作業では、根切り、子葉及び下葉の除去等を行っており、調整・出荷  
作業が全作業時間の 60%近くを占めており、その効率化、省力化が求められていました。  
現行機を使用した場合には、調整作業に 4 名が必要で、作業精度も高くありませんでした。  
そこで、現行機と比べて作業精度が一段と高く、手直しに伴う作業時間を削減できる新た  
な調整機が開発されました。現行機では 4 名での調製作業でしたが、開発機では 2 名で調  
製作業ができ、作業時間は現行機の約 570 株／人・時間に対し、開発機では約 900 株／人・  
時間と削減できました。

・農林水産省ホームページ：最新農業技術・品種 2019 「高能率軟弱野菜調整機」

[https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/2019/2019seika-07.html](https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2019/2019seika-07.html)

## ☆果樹関係

### ○やや晩生で食味が良いニホングリ「美玖里」

元農研機構 果樹研究所は、ニホングリ品種「石鎚」と「秋峰」を交雑し、その実生から選抜し、新品種「美玖里」を育成し、2011年に品種登録されました。本品種は、関東地方以西の産地で特性を発揮でき、既往の主要品種と比較して、果肉色（黄色味が強い）や食味（甘み、香気）の点で優れているとされています。渋皮剥皮は困難ですが、ゆで栗等の家庭用消費の他、付加価値の高い加工原料としての利用が期待されています。

- ・農林水産省ホームページ：最新農業技術・品種 2019「やや晩生で食味が良いニホングリ『美玖里』」

[https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/2019/2019seika-13.html](https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2019/2019seika-13.html)

- ・齋藤寿広ら(2015) ニホングリ新品種‘美玖里’．果樹研報 19：1-9.

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/files/01\\_nihonkurimikuri.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/files/01_nihonkurimikuri.pdf)

## ☆畜産関係

### ○大型破砕機と「フレコンラップ法」による破砕穀実の迅速なサイレージ調整方法

飼料用穀実のサイレージ化は、保存のための乾燥コストを低減する技術として重要であり、飼料用米では既に、内袋を挿入したフレコンに封入してサイレージ化する方法が普及しています。しかし、この方法では、掃除機による脱気密封作業が必要であり、短期間に大量の飼料用穀実を処理できないという問題がありました。そこで、農研機構 東北農業研究センターでは、破砕速度 7t/時間以上の能力を有する大型破砕機で破砕した穀実を、内袋無しのフレコンに投入し、投入口を結束後、牧草用のラッピングマシンを用いてフレコンごとラッピングしました。これにより、脱気することなく、迅速に、穀実サイレージを調整できるようになりました。

- ・農林水産省ホームページ：最新農業技術・品種 2019「大型破砕機と『フレコンラップ法』による破砕穀実の迅速なサイレージ調整方法」

[https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new\\_tech\\_cultivar/2019/2019seika-04.html](https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2019/2019seika-04.html)

## ☆水産関係

### ○三河湾のアサリ漁場周辺における浮遊幼生の出現密度

愛知県水産試験場では、三河湾でのアサリの浮遊幼生の出現密度を、アサリの漁獲あるいは稚貝の多い湾内4地点で10年間にわたり調査を行いました。その結果、三河湾ではアサリの生息場所ごとに産卵時期が異なる場合があること（産卵期間が5月～11月まで継続）、三河湾の様々な漁場で産卵されたものが、三河湾沿岸部に着底期幼生として高い頻度で供給されたと考えられました。すなわち、三河湾では高度な幼生供給ネットワークが機能してアサリ資源が安定し豊富であったと考えられました。最近のアサリの不漁の原因を解明する上で、複雑なネットワーク機能がどのように変化しているのかを知ることは重要なヒ

ントになるかもしれません。

・愛知県水産試験場ホームページ：愛知県水産試験場研究報告

<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/235651.pdf>

.....

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配にあずかり、誠にありがとうございました。会員の皆様方のご繁栄、ご多幸を心からお祈り申し上げます。本年も本会へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されますので、東海地域にも海外からの来客が増え、東海地域の魅力を知っていただき、アピールする上でも良い機会となりそうです。

さて、いとうせいこう著「国境なき医師団になろう！」（講談社現代新書：2019年9月20日第1刷発行）を読みました。著者のいとうせいこう氏は作家・クリエイターとして映像・音楽・舞台など多方面で活躍をされています。

世界レベルでの「国境なき医師団」の呼称は、発祥（1971年12月20日）のフランス語（*Médecins Sans Frontières*）の頭文字を取って **MSF** とも言われています。本書は、ハイチ、ギリシャ、フィリピン、ウガンダ、南スーダンの世界各地の紛争地や自然災害地でのルポと **MSF** メンバーへのインタビューをもとにして書かれています。**MSF** の主な活動内容には「緊急医療援助」とともに「証言活動」があります。医療活動を行うと、多くの患者さんに会い、人々の窮状にも触れます。そうした中で、弱い立場にある人々に医療が届かない原因や、人権が侵害されている状況が見えてきて、医療だけでは解決できない問題に突き当たることが述べられています。そうした現状を多くの人々に伝え、注目を集めることで、現状の改善につなげるために証言活動がなされています。国連安保理事会への訴えや、あるいは紛争当事国の政策決定にたずさわる人たちに「医療を届けるためには、法律を変える必要がある」などの交渉を行うということです。

ある日本人の **MSF** メンバーへのインタビューでは次のように語られています。日本人の控え目や礼儀正しさがとりわけ中東では好意的に受け止められていると感じている。また、相手の気持ちを立てる文化のおかげで交渉相手と良い関係を築けた反面、配慮すぎて押しが弱くなるという短所を自覚させられた。こういった日本人の特性を生かして、**MSF** 活動の可能性を最大化させていきたいといったことです。

複雑化する国際情勢の中で、人道援助団体の在り方について多くのインタビューを通して語られており、多面的な見方や分析能力を養う上で大変参考になりました。

（中山博導 CD 記）

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

U R L : <http://www.biotech-tokai.jp/>

2020年2月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第182号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2020年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
- 総会及び第1回セミナー (6月18日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
- ☆東海農政局 食品安全セミナー (2月19日)
- ☆中部異業種間リサイクルネットワーク 2月度研究会 (2月20日)
- ☆東海農政局 HACCPに沿った衛生管理の制度化とGAPの重要性の説明会
- (2月26日)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2020年度農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究
- (農林水産省農林水産技術会議事務局)
- ☆2020年度安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエ
- ンス研究推進委託事業 (農林水産省消費・安全局)
- ☆2020年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省農村振興局)
- ☆林業イノベーション推進総合対策のうち省力化機械開発推進対策及び新素材
- による新産業創出対策 (林野庁)
- ☆森林病虫害等被害対策事業のうち森林病虫害等被害対策強化・促進事業
- (林野庁)
- ☆林業イノベーション推進総合対策のうち早生樹等優良種苗生産推進対策の
- うち エリートツリー等の原種増産技術の開発事業 (林野庁)
- ☆花粉発生源対策推進事業 (林野庁)
- ☆林業イノベーション推進総合対策のうち革新的林業実践対策のうちスマート
- 林業実践対策 (林野庁)
- ☆木材需要の創出・輸出力強化対策のうち「地域内エコシステム」構築事業
- (林野庁)
- ☆木材産業・木造建築活性化対策のうち都市の木造化に向けた木質耐火部材等
- の利用促進事業、中高層建築物を中心とした CLT 等の木質建築部材の利用
- 促進事業及び低層建築物を中心とした JAS 構造材利用拡大事業 (林野庁)
- ☆2020年度ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業
- (水産庁)

- ☆2020 年度スマート水産業推進事業のうちスマート水産業推進基盤構築委託事業 (水産庁)
- ☆2020 年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発 (水産庁)
- ☆2020 年度漁場環境改善推進事業のうち赤潮及び貧酸素水塊の広域自動モニタリング技術の開発 (水産庁)
- ☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
- ☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆2019 年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆大学発新産業創出プログラム (START) (JST)
- 2020 年度プロジェクト支援型
- ☆2020 年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
- ☆2020 年度先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)
- ☆2020 年度研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (第 1 回公募) (NEDO)
- ☆研究開発関連以外 (3 件)
- ☆民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

#### ◆ 1 ◆ 2020 年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

○総会及び第 1 回セミナーの予定日等のお知らせ

【開催予定日】2020 年 6 月 18 日 (木)

【開催場所】ウイंकあいち 1310 会議室

#### ◆ 2 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆食品安全セミナー

(東海農政局)

【開催日時】2020 年 2 月 19 日 (水) 13:30~15:30 (13:00 から受付)

【開催場所】東海農政局 第 1 会議室 (愛知県名古屋市中区三の丸 1-2-2)

【主催】東海農政局

【開催案内】

<https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/index.html>

【チラシ・参加申込書】

<https://www.maff.go.jp/tokai/shohi/seikatsu/iken/seminar/attach/pdf/index-46.pdf>

【内容】

第1部 13:30～14:05

「食品安全と行政の取組」

講師：東海農政局 消費・安全部 職員

第2部 14:15から15:25

「輸入食品の安全性確保について」

講師：名古屋検疫所 職員

【参加者募集】 募集人数40名、参加費：無料

（事前申し込み制、申込み多数によりご参加いただけない場合は、連絡があります）

【申込み】 申込期限 2月17日（月）17:00

参加申込は上記「チラシ」の URL にある申込様式に必要事項を記入の上、  
FAX（052-220-1362）にてお申し込み下さい。

或いは、下記の URL からインターネットにてお申し込み下さい。

<https://www.contactus.maff.go.jp/j/tokai/form/seikatsu/200219.html>

電話によるお申込みもできます（電話番号：052-223-4651）

【お問い合わせ先】 代表：052-201-7271（内線2810）

ダイヤルイン：052-223-4651

FAX 番号：052-220-1362

（東海農政局 消費・安全部 消費生活課）

.....

☆中部異業種間リサイクルネットワーク 2月度研究会

【開催日時】 2020年2月20日（木）14:00～17:00

【開催場所】 名古屋市市民活動推進センター 集会室

ナディアパーク・国際デザインセンタービル 6階

（名古屋市中区栄三丁目18-1）

【開催案内】

<https://www.crn2011.jp/%E8%A1%8C%E4%BA%8B%E3%81%94%E6%A1%88%E5%86%85/>

【講演】

(1) 森林と共生する持続可能な地域社会へ

一般社団法人 奏林舎 額田木の駅プロジェクト 事務局長 唐澤晋平 氏

(2)使用後紙おむつはリサイクルの時代へ

一般社団法人 NIPPON 紙おむつリサイクル推進協会 会長 須東亮一 氏

【申込み】 事前申込み（当日受付は、会場に席がある場合にご入場できます）

会費：会員は無料 会員以外：1,000 円（学生 500 円）

お申込みはメールで行って下さい。

.....

☆HACCP に沿った衛生管理の制度化と GAP の重要性についての説明会（東海農政局）

【開催日時】 2020年2月26日（水）13時30分から17時（受付 13時00分から）

【開催場所】 名古屋能楽堂 会議室

所在地：愛知県名古屋市中区三の丸 1-1-1

駐車場は確保されてませんので、公共交通機関等の利用をお願いします。

【開催案内】 <https://www.maff.go.jp/tokai/press/kigyo/200127.html>

【参加申込書・地図】 <https://www.maff.go.jp/tokai/press/kigyo/attach/pdf/200127-1.pdf>

【内容】

第1部 食品衛生法の改正に伴う「HACCP に沿った衛生管理」の制度化について

(1)HACCP に伴った衛生管理の制度化について

東海北陸厚生局健康福祉部食品衛生課

(2)HACCP に沿った衛生管理の制度化に伴う指導について

愛知県健康福祉部保健医療局生活衛生課（食品衛生・監視グループ）

(3)HACCP に沿った衛生管理の制度化に伴う取組について

6次産業化プランナー 永井利明 氏

(4)HACCP の取組事例について

農業生産法人 PLUS 株式会社 代表取締役 三輪利明 氏

第2部 農業生産の GAP によるレベルアップについて

(1)GAP の導入対策について

有限会社ひるがのラファノス管理責任者本部長、株式会社みのひだ社中

代表取締役社長 奥村竜太 氏

(2)事業者からみた GAP の重要性について

イオンリテール株式会社 東海カンパニー商品統括部農産グループ

マーチャンタイザー 宮地朗人 氏

【募集】 参加費無料、先着80名（申込者多数によりご参加頂けない場合のみ、連絡が有ります）

【対象者】 東海地区の食品の製造・加工、調理、販売等に取り組む農林漁業者、農協、6次産業化サポートセンター、地方公共団体

【申込み】 申込み期限は、2月18日（火）17時。上記参加申込書の URL から参加申

込書をダウンロードし、必要事項をご記入の上、ファックスでお送り下さい。  
送信先：FAX：052-201-1703 東海農政局 経営・事業支援部 食品企業課  
インターネットでもお申込みも上記チラシから可能です。

### ◆ 3 ◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、  
下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の  
URL は次の通りです。 <http://www.jataff.jp/>

### ◆ 4 ◆ 2019年度および2020年度の競争的研究資金等について

☆2020 年度 農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究

（農林水産省農林水産技術会議事務局）

[https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/200121\\_14.html](https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/200121_14.html)

分野等：

#### 1. 現場ニーズ対応型プロジェクト

- 1) 品種多様性拡大に向けた種子生産の効率化技術の開発
- 2) センシング技術を駆使した畑作物品種の早期普及と効率的生産システムの確立
- 3) 果樹等の幼木期における安定生産技術の開発
- 4) 大規模飼料生産体系における収穫作業の人手不足に対応する技術開発
- 5) 省力的かつ経済的効果の高い野生鳥獣侵入防止技術の開発

#### 2. 脱炭素・環境対応プロジェクト

- 1) 農林水産分野における炭素吸収源対策技術の開発

#### 3. 次世代育種・健康増進プロジェクト

- 1) ゲノム編集技術を活用した農作物品種・育種素材の開発（国民理解促進のための科学的知見の集積）
- 2) 品種識別技術の開発

公募期間：2020 年 1 月 21 日～3 月 12 日

.....

☆2020 年度安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究  
推進委託事業（農林水産省消費・安全局）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/gijyutu/200110.html>

分野等：

1. 官民・国際連携による ASF ワクチン開発の加速化
2. CSF の新たな総合的防除技術の開発

公募期間：2020 年 1 月 10 日～3 月 4 日

☆2020 年度官民連携新技術研究開発事業

(農林水産省農村振興局)

[https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/200129\\_1.html](https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/200129_1.html)

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：2020 年 1 月 29 日～3 月 31 日

☆林業イノベーション推進総合対策のうち省力化機械開発推進対策及び新素材による新産業創出対策 (林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo\\_1/02mhk0128.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo_1/02mhk0128.html)

分野等：林業の成長産業化に向けて、低コストで効率的な作業システムや需要に応じた木材生産体制の確立、作業現場における生産性・安全性等を飛躍的に向上させるとともに、林業の枠を超える産業・価値を創出するため、木材生産や造林作業の自動化等に向けた機械開発及び新素材製造技術の実証に対する取組に支援を行う。

公募期間：2020 年 2 月 3 日～3 月 2 日

☆森林病虫害等被害対策事業のうち森林病虫害等被害対策強化・促進事業 (林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo\\_1/02mhk0126.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo_1/02mhk0126.html)

分野等：

1. ドローンによる被害木の探査
2. ドローンによるきめ細かな薬剤散布の実証

公募期間：2020 年 2 月 3 日～3 月 2 日

☆林業イノベーション推進総合対策のうち早生樹等優良種苗生産推進対策のうち エリー

トツリー等の原種増産技術の開発事業

(林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo\\_1/02mhk0124.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo_1/02mhk0124.html)

分野等：

1. スギの増殖技術の高度化と実用化
2. カラマツの増殖効率の改善
3. 早生樹の増殖技術の高度化と実用化
4. 無花粉スギの生産・増殖効率の改善

公募期間：2020年2月3日～3月2日

.....

☆花粉発生源対策推進事業

(林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo\\_1/02mhk0118.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo_1/02mhk0118.html)

分野等：

1. 総合的な花粉発生源対策の強化及び普及
2. 花粉症対策苗木への植替促進
3. 花粉症対策品種の円滑な生産支援
4. スギ花粉飛散防止剤の実用化試験
5. スギ・ヒノキ雄花の着花量調査の推進

公募期間：2020年2月3日～3月2日

.....

☆林業イノベーション推進総合対策のうち革新的林業実践対策のうちスマート林業実践  
対策

(林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo\\_1/02mhk0117.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo_1/02mhk0117.html)

分野等：リモートセンシング等の最新の森林計測技術やクラウド技術等のICT等の先端技術を活用することで、高精度な森林情報に基づき、森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産を可能とする「スマート林業」を実践する取組を支援する。

公募期間：2020年2月3日～3月2日

.....

☆木材需要の創出・輸出力強化対策のうち「地域内エコシステム」構築事業

(林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo\\_1/02mhk0111.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo_1/02mhk0111.html)

分野等：

1. 「地域エコシステム」モデル構築事業
2. 「地域エコシステム」技術開発・実証事業
3. 「地域エコシステム」技術開発等支援事業
4. 「地域エコシステム」サポート事業のうち相談・サポート体制の構築
5. 「地域エコシステム」サポート事業のうち燃料材サプライチェーン実態調査支援

6.「地域エコシステム」サポート事業のうち木質バイオマス熱利用・熱電併給効率化実態調査支援

7.「地域エコシステム」サポート事業のうち放置薪炭林活用実態調査支援

公募期間：2020年2月3日～3月2日

.....

☆木材産業・木造建築活性化対策のうち都市の木造化に向けた木質耐火部材等の利用促進事業、中高層建築物を中心とした CLT 等の木質建築部材の利用促進事業及び低層建築物を中心とした JAS 構造材利用拡大事業 (林野庁)

[https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo\\_1/02mhk0104.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/02koubo_1/02mhk0104.html)

分野等：

1. 都市における木質耐火部材等利用拡大
2. 都市の木造化等に向けた木質の防耐火部材等の新たな製品・技術の開発
3. CLT を活用した先駆的な建築物の建設等支援
4. 中高層建築物等における CLT 等の利用拡大
5. CLT 建築物等の設計者等育成・技術的支援・資格制度の運用
6. CLT 等の利用促進及び低コスト化の推進に係る技術開発・検証等
7. JAS 構造材活用事業者拡大及び JAS 構造材実証支援事業
8. 大径化した原木の利用拡大及び横架材・2×4 部材等の製品・技術開発
9. 顔の見える木材での快適空間づくり事業

公募期間：2020年2月3日～3月2日

.....

☆2020 年度ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業 (水産庁)

[https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/itaku/20200127\\_unagi\\_system.html](https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/itaku/20200127_unagi_system.html)

分野等：工学等異分野の技術の導入や産学官での連携を行い、これまでの実証事業で得た技術開発の成果を踏まえ、①仔魚の生残率の向上、②再現性の向上、③省力化・省コスト化等の実証試験に取り組み、ウナギ種苗を大量生産する際に必要な知見を得る。

公募期間：2020年1月27日～2月27日

.....

☆2020 年度スマート水産業推進事業のうちスマート水産業推進基盤構築委託事業(水産庁)

[https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/itaku/200127\\_smartkiban.html](https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/itaku/200127_smartkiban.html)

分野等：「スマート水産業」のさらなる推進に向けて、生産から流通に至る現場に ICT を導入する取組を進めるとともに、そこで得られたデータを相互に連携・共有・活用する「データのフル活用」を目指す。本事業では、水産業において「データのフル活用」の具体的な事例を示すため、ユースケースを想定した実証を行うとともに、その取組を実施するための環境整備のために必

要な議論を行う。

公募期間：2020 年 1 月 28 日～3 月 9 日

.....  
☆2020 年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発

(水産庁)

[https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/200205\\_se19.html](https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/200205_se19.html)

分野等：ノリ等の海藻養殖が行われる冬季には、ケイ藻赤潮等により栄養塩が不足し、ノリやワカメ等の色落ち被害が発生することから、ノリ等の海藻養殖場の海域において、適正な栄養塩供給手法の開発などを支援する。

公募期間：2020 年 2 月 5 日～20 日

.....  
☆2020 年度漁場環境改善推進事業のうち赤潮及び貧酸素水塊の広域自動モニタリング

技術の開発

(水産庁)

[https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/200205\\_se20.html](https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyosei/supply/hozyo/200205_se20.html)

分野等：赤潮・貧酸素水塊の発生状況の適切な把握と予察のため、水温、塩分、クロロフィル、濁度、溶存酸素などを広く観測できる連続観測装置の開発を行うとともに、広域の水質データを効率的に収集・公表するシステムの開発を支援する。

公募期間：2020 年 2 月 5 日～20 日

.....  
☆2019 年度研究成果最適展開支援プログラム

(JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長 10 年

研究開発費：原則 1 億円～15 億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10% 返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....  
☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ

(JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

☆大学発新産業創出プログラム (START) 2020 年度プロジェクト支援型 (JST)

<https://www.jst.go.jp/start/support/r2/index.html>

分野等：大学等にて、事業プロモーターのマネジメントのもと、市場や出口を見据えて事業化を目指した研究開発プロジェクトを JST が支援する。

公募期間：2020 年 1 月 31 日～4 月 17 日

☆2020 年度 戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2020/200131mono.html>

分野等：1. デザイン開発、2. 情報処理、3. 精密加工、4. 製造環境、5. 接合・実装、6. 立体造形、7. 表面処理、8. 機械制御、9. 複合・新機能材料、10. 材料製造プロセス、11. バイオ、12. 測定計測

公募期間：2020 年 1 月 31 日～4 月 24 日

☆2020 年度 NEDO 先導研究プログラム/新技術先導研究プログラム (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100215.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100215.html)

分野等：我が国の (1) 省エネルギー、新エネルギー、CO2 削減等のエネルギー・環境分野 (エネルギー・環境新技術先導研究プログラム) 及び (2) 新産業創出に結びつく産業技術分野 (新産業創出新技術先導研究プログラム) の中長期的な課題を解決していくために必要となる技術シーズ、特に既存技術の延長とは異なる、2030 年を目途とした持続可能なエネルギー供給の実現や、新産業創出による産業競争力の向上に有望な技術の原石を発掘し、将来の国家プロジェクト等に繋げていく。

公募期間：2019 年 12 月 26 日～2020 年 2 月 28 日

☆2020 年度 研究開発型ベンチャー支援事業/シード期の研究開発型ベンチャーに対する事業化支援 (第 1 回公募) (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100231.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100231.html)

分野等：ベンチャー・エコシステムにおいて重要な役割を果たすベンチャーキャピタル及びシードアクセラレータ等と NEDO が協調し、シード期の研究開発型

ベンチャーが必要とする研究開発及び事業化に必要な資金、並びにその活動を支援する。

公募期間：2020年1月27日～2月27日

.....

研究開発関連以外

☆2020年度農山漁村6次産業化対策事業のうち食品産業イノベーション推進事業  
(農林水産省食料産業局)

[https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/shokusan/200204\\_13.html](https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/shokusan/200204_13.html)

分野等：ロボット、AI、IoT等の先端技術の活用実証や、複数企業が連携して業界の基盤となる機器・システムの開発・構築を行い、活用実証を図る取組の促進等  
を図ることにより、食品産業におけるイノベーションを創出し、食品製造業  
から外食・中食産業に至る食品産業全体の生産性向上を推進する。

公募期間：2020年2月4日～21日

.....

☆2020年度食品等流通合理化促進事業のうち輸出拠点・流通新技術導入モデル形成事業  
(農林水産省食料産業局)

[https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/shokusan/200204\\_14.html](https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/shokusan/200204_14.html)

分野等：食品の流通・販売において生産者と消費者双方がメリットを受けられる流通  
構造を確立するため、食品流通業者等による生産情報の実需者への提供や代  
金決済の円滑化等の取組、ICTを活用したサプライチェーンの合理化等によ  
る、輸出の拠点化や新たな流通技術の導入に向けた取組を支援する。

公募期間：2020年2月4日～21日

.....

☆2019年度補正予算 地域新成長産業創出促進事業費補助金(地域イノベーション基盤  
整備事業費) (経済産業省)

<https://www.meti.go.jp/information/publicoffer/kobo/2020/k200107001.html>

分野等：公設試験研究機関(以下「公設試」という)・大学等が先端設備を導入し、  
当該設備を活用して企業の人材を育成する事業に係る経費を補助し、地域企  
業によるイノベーション創出・生産性向上を支える公設試・大学等の自立的  
な企業支援体制を構築することを目的とする。

公募期間：2020年1月7日～2月28日

.....

☆＜民間の競争的研究資金＞

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

.....

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

### ☆食品関係

#### ○機能性表示食品の届け出の現状、特に生鮮食品について

機能性表示食品制度は 2015 年 4 月に施行され、2019 年 5 月までに生鮮食品としては、ミカン、リンゴ、メロン、大豆もやし、米、トマト、ケール、ホウレンソウ、唐辛、カンパチ、ぶり、卵で、それぞれの機能性関与成分とその機能性の届出が受理されています。他に、単一の農林水産物のみが原料である加工食品では、緑茶、冷凍ホウレンソウ、蒸し大豆、大麦・蒸し大麦、無洗米、トマトジュース、数の子、寒天、河内晩柑ジュースなどで届出が受理されています。また、生鮮食品の届出が低調であるために、この制度がもっと活用されるように施策が展開されています。農研機構 ヘルスケア創出特命プロジェクト担当の山本（前田）万里氏は、雑誌「化学と生物」に、これらの内容について話題提供されています。コンパクトに分かり易くまとめられていますので、大変参考になります。

- ・山本（前田）万里（2019）4 年目を迎えた機能性表示食品の届出の現状、特に生鮮食品について ～機能性表示食品制度の改正ガイドライン～. 化学と生物 57（11）660－661.

### ☆イネ関係

#### ○豚排泄物由来肥料を最大限活用した飼料用米の多収栽培技術の開発

この研究成果は、農研機構東北農業研究センターが研究総括を務める研究グループが、農食研究推進事業で行ったものです。主食用米の需要が減少する中で、大きな需要がある飼料用米の生産は、主食用米の需給の安定、水田の維持、食料・飼料自給率向上などにとって重要です。耕畜連携による豚ふん堆肥を活用した土壌養分維持方法、堆肥化過程で発生するアンモニアガス回収による液体硫酸の効率的製造方法と水田への流入施肥技術、新規多収品種向けの肥培管理技術の開発が行われ、これら技術により、飼料用米生産量当たりの温室効果ガスである二酸化炭素が最大 40%削減可能となり、耕畜双方のメリットとなる技術体系が構築されました。

- ・農林水産省：研究紹介 2018, 37-38 頁.

- ・農林水産省 HP：研究紹介 2018

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/kankoubutu/attach/pdf/fundresults2018-21.pdf>

### ☆病虫害関係

#### ○中山間の未利用有機性資源を活用した人にも環境にもやさしい土壌消毒技術の実用化

この研究成果は、農研機構西日本農業研究センターが研究総括を務める研究グループが、農食研究推進事業で行ったものです。中山間地では、経営多角化のために導入した園芸作目の土壌伝染性病害による被害が深刻であり、また、耕作放棄地の拡大が問題とな

っています。本研究では、地域の豊富なバイオマスを生かした土壌消毒法の実用化を目指しました。その結果、中山間地の耕作放棄地の雑草や、そこで栽培したソルガム等の植物を細断して漉き込み、露地を被覆する土壌還元消毒法が開発されました。なお、土壌還元消毒法では、有機物のすき込みと被覆により地温を上昇させて嫌気性微生物を繁殖させ、土壌を還元状態にする必要があります。本成果としては更に、消毒資材となる植物の細断同時すき込み機及び大面積の露地の被覆と除去を行う機械が開発されました。各種有機物を用いた土壌還元消毒がハウレンソウ萎凋病、トマトかいよう病、レンコン腐敗病、レタスビッグベイン病に効果があることが明らかにされました。ちなみに、オランダ、米国等でも土壌還元消毒法の利用が増えているようです。

・農林水産省：研究紹介 2018, 117-118 頁.

・農林水産省 HP：研究紹介 2018

[https://www.affrc.maff.go.jp/docs/public\\_offering/agri\\_food/2018/27016c.html](https://www.affrc.maff.go.jp/docs/public_offering/agri_food/2018/27016c.html)

#### ☆水産関係

##### ○未利用バイオマス資源でアメリカミズアブを生産して水畜産飼料化する

この研究成果は、大阪府立環境農林水産研究所が研究代表を務める研究グループが、環境省環境研究総合推進費で実施したものです。本研究は、世界の熱帯～温帯に広く分布するアメリカミズアブの幼虫の食性を利用して食品廃棄物を減量し、その幼虫を動物性資源として水産及び畜産用飼料に活用する取組です。成果としては、食品残渣を用いて本種幼虫の最適な生産条件を設定し、食品残渣 100kg を処理するシステムを構築したこと、本種幼虫粉末は養殖魚の餌として魚粉を 100%代替えできること、採卵鶏では鶏卵の食味を損なうことなく殻の強度が増すこと、連続処理を行える本種の継代繁殖技術を確認したことです。この成果は、2018 年度の農林水産技術会議事務局の 10 大ニュースになっています。

・環境省 HP：ミズアブの機能を活用した革新的資源循環系の構築

[http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai/new\\_project/h28/pdf/1-1604.pdf](http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/kadai/new_project/h28/pdf/1-1604.pdf)

・農林水産技術会議事務局 HP：2018 農業技術 10 大ニュース

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/181221-7.pdf>

.....

#### 編集後記

2月に入り立春が過ぎましたが、この厳しい寒さは来週には終息すると予報されています。一方、中国湖北省武漢市を発生源とする新型コロナウイルスによる患者数は増加の一端をたどり終息の気配が見えません。インバウンド需要の激減、中国進出企業の操業停止、部品等のサプライチェーンへの影響など、人の健康以外にも経済的社会的影響が顕れ始めています。これまでに発生した類似コロナウイルスである SARS（重症急性呼吸器症

候群) 発生時の経験が生かされ、万全の対策が講じられて、早期に終息することを願うばかりです。個人のできることは、手洗い、うがい、マスクの着用、免疫力を高める、感染が疑われる時には直ぐに医師に見てもらうことぐらいですが、励行したいものです。

ところで、最近読んだ本に小島希世子著「ホームレスや引きこもりが人生を取り戻す『奇跡の農園』」(河出書房新書、2019年8月初版発行)があります。著者は、熊本県の農村部でサラリーマン家庭に育ちましたが、子供時代に友達の農家にあこがれ「将来は農家になる」と思っていました。大学は「農」と関係ない学科を卒業しました。しかし、「農家になりたい」という一念から野菜卸会社に勤め、その後、故郷でこだわりの米等の栽培をする農家と提携し、農家直送のオンラインショップ会社を神奈川県で立ち上げ、体験農園、直売場も設けるなど驚くほどの活力で起業しています。都会で見かけたホームレスにショックを受け、体験農園でアルバイトとして受入れてきました。その後、引きこもり、生活保護者なども受け入れ、彼らの立ち直り、自立を助けてきました。その根底にあるのは、著者自身が「畑仕事をしていると落ち着く、自分を取りもどせる、自分を見つめ直せる、新たな気付きや発見をすることができる」ことを体験していることです。2014年には就農促進と農業界の活性化を目指す「NPO 法人農スクール」を立ち上げ、卒業生を就農させています。これらの活動に対して2017年に第31回人間力大賞農林水産大臣奨励賞を受賞されています。農林水産省は、最近、農福連携関係の事業を実施していますが、著者の活動はその先駆けとも言えるかと思います。

本書では、ホームレスや引きこもりの方などを実際に支援した体験が生々しく、上手くいった例、いかなかった例も含めて書かれており、農福連携に関わる方にとって大変参考となると思います。是非、読んでいただきたい感動の一冊です。(松井正春 CD 記)

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL : <http://www.biotech-tokai.jp/>

2020年3月10日発行

\*\*\*\*\*

東海生研 ～メールマガジン 第183号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*\*

- 1. 2020年度「知」の集積による産学連携推進事業
- ☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会
- 総会及び第1回セミナー (6月18日)
- 2. 東海地域内でのセミナー・シンポ・会議等
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
- 4. 競争的研究資金について
- ☆2020年度安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエ  
ンス研究推進委託事業 (農林水産省消費・安全局)
- ☆2020年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省農村振興局)
- ☆2020年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)
- ☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)
- 企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)
- ☆2019年度産学共同実用化開発事業 (JST)
- NexTEP 未来創造ベンチャータイプ
- ☆大学発新産業創出プログラム (START) (JST)
- 2020年度プロジェクト支援型
- ☆2020年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)
- ☆クリーンエネルギー分野における革新的技術の国際共同研究開発事業
- (NEDO)
- ☆2020年度ムーンショット型研究開発事業/2050年までに、地球環境再生に  
向けた持続可能な資源循環を実現 (NEDO)
- ☆カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発 (NEDO)
- ☆炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー関連技術開発 (NEDO)
- <民間の競争的研究資金>
- <研究開発関連以外>
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆ 1 ◆ 2020年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆NPO法人東海地域生物系先端技術研究会

○総会及び第1回セミナーの予定日等のお知らせ

【開催予定日】2020年6月18日（木）

【開催場所】ウインクあいち 1310会議室

---

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

---

・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、関係する殆どのイベントが中止されています。

---

◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

---

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、  
下記 URL の通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/event/index.html>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報の URL は下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）が開催するイベント情報の  
URL は次の通りです。 <http://www.jataff.jp/>

---

◆4◆ 2019年度および2020年度の競争的研究資金等について

---

☆2020年度安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究  
推進委託事業のうち短期課題解決型研究（農林水産省消費・安全局）

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/gijyutu/200207.html>

分野等：

1. 食品安全に関する課題
  - 1) カキ中のノロウイルス低減対策に関する研究
  - 2) 野菜の生産環境における微生物の消長を考慮した水や堆肥の管理対策の確立
2. 動物衛生に関する課題
  - 1) いのしし用国産 CSF 経口ワクチンの開発
3. 植物防疫に関する課題
  - 1) 臭化メチルの代替の消毒方法の確立及び安全性の確保
  - 2) Tomato brown rugose fruit virus の多検体診断技術及び防除技術の開発

公募期間：2020年2月7日～3月26日

.....

☆2020年度官民連携新技術研究開発事業

（農林水産省農村振興局）

[https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/200129\\_1.html](https://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/200129_1.html)

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術
5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：2020年1月29日～3月31日

.....

☆2020年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/1401208.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1401208.htm)

分野等：宇宙利用技術創出プログラム（衛星から得られたデータ等の宇宙科学技術を活用し、異分野シーズとの融合による新たな宇宙利用技術に関する研究開発を行うことにより、環境、農業・漁業、防災、スポーツ、地理空間等の様々な分野における実用化につながる、新たな価値を提供する技術の創出を目指す）等。

公募期間：2020年2月20日～4月20日

.....

☆2019年度研究成果最適展開支援プログラム (JST)

企業主導フェーズ NexTEP-A タイプ

<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/2019-nextep-a.html>

分野等：企業による大学等の研究成果に基づく技術シーズの大規模な実用化開発を支援対象とする。

研究開発期間：原則最長10年

研究開発費：原則1億円～15億円。開発成功時：全額年賦返済、開発不成功時：10%返済、実施料納付

公募期間：通年募集、第3回締切 2020年3月31日

.....

☆2019年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援する。

公募期間：第3回締切 2020年3月31日

.....

☆2019 年度産学共同実用化開発事業 NexTEP 未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_2019.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_2019.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、原則として設立後 10 年以内の企業が行う、開発リスクは高いが未来の産業を創造するインパクトが大きい開発について支援する。

公募期間：第 3 回締切 2020 年 3 月 31 日

☆大学発新産業創出プログラム (START) 2020 年度プロジェクト支援型 (JST)

<https://www.jst.go.jp/start/support/r2/index.html>

分野等：大学等にて、事業プロモーターのマネジメントのもと、市場や出口を見据えて事業化を目指した研究開発プロジェクトを JST が支援する。

公募期間：2020 年 1 月 31 日～4 月 17 日

☆2020 年度 戦略的基盤技術高度化支援事業 (経済産業省)

<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/sapoin/2020/200131mono.html>

分野等：1. デザイン開発、2. 情報処理、3. 精密加工、4. 製造環境、5. 接合・実装、6. 立体造形、7. 表面処理、8. 機械制御、9. 複合・新機能材料、10. 材料製造プロセス、11. バイオ、12. 測定計測

公募期間：2020 年 1 月 31 日～4 月 24 日

☆クリーンエネルギー分野における革新的技術の国際共同研究開発事業 (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/AT092\\_100155.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/AT092_100155.html)

分野等：微生物やゲノム編集技術等を用いた革新的バイオプロセス技術開発等

公募期間：2020 年 2 月 10 日～4 月 17 日

☆2020 年度ムーンショット型研究開発事業/2050 年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現 (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2\\_100234.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100234.html)

分野等：地球環境再生のため、地球温暖化問題の解決（クールアース）又は環境汚染問題の解決（クリーンアース）を目的とした研究開発を行う。

公募期間：2020 年 2 月 20 日～4 月 20 日

☆カーボンリサイクル実現を加速するバイオ由来製品生産技術の開発 (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/EF2\\_100152.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/EF2_100152.html)

分野等：

1. バイオ資源活用促進基盤技術開発

## 2. 生産プロセスのバイオフィアウンドリ基盤技術開発

公募期間：2020年2月27日～4月10日

.....

☆炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー関連技術開発 (NEDO)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/EF2\\_100148.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/EF2_100148.html)

分野等：

1. 革新的 CNF 製造プロセス技術の開発
2. CNF 利用技術の開発

公募期間：2020年2月28日～3月30日

.....

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報のうち、「民間等」をご覧ください。

<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

.....

<研究開発関連以外>

☆2020年度 商業・サービス競争力強化連携支援事業（新連携支援事業）（経済産業省）

### ◆ 5 ◆ 新技術情報について

☆食品関係

○きのこ発酵乳由来オピオイドペプチドを基盤とする高血圧症の予防・改善食品

鳥取大学及び島根大学は共同して、イノベーション創出強化研究推進事業（基礎研究ステージ）において野生きのこに牛乳を発酵させる能力があることを見だし、機能性成分オピオイドジペプチドを高収率で生産することに成功しました。この成分は、ラットを用いた試験で、血圧降下作用のみならず、脳卒中の予防効果も有することが明らかにされました。また、きのこ発酵乳中に、血糖値改善に有効とされるアンジオテンシン変換酵素阻害活性の高いペプチドも含まれていることが明らかにされました。今後、ヒト介入試験による検証が行われ、新たな機能性食品を開発する研究が引き続き行われます。

・生研支援センター：冊子「研究紹介 2019」

☆野菜関係

○4・5月どり寒玉系キャベツ品種の選定とその栽培技術を開発

本研究成果は、愛知県農業総合試験場東三河農業研究所が農林水産省委託プロジェクト研究「広域・大規模生産に対応する業務・加工用作物品種の開発」で実施した研究成果で

す。寒玉系キャベツは加工・業務用に利用されることから安定生産が求められますが、4月下旬から5月上旬にかけて端境期があり、その解消が課題となっています。このため、端境期の解消を目的に、新たな寒玉系キャベツ品種及び栽培方法の開発が行われました。その結果、4月どりと5月どりの2作型について、それぞれ10種類の中から端境期に収穫可能な新品種「YR503」「NNS-C-91」が選定され、それぞれに適した栽培方法についても開発されました。

- ・愛知県農業総合試験場ホームページ：2019年 愛知県農業総合試験場の10大成果  
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/316256.pdf>

#### ☆病害虫関係

##### ○土着天敵と天敵製剤＜w 天敵＞を用いた果樹の持続的ハダニ防除体系の確立

農研機構果樹茶業研究部門を中核機関とする研究グループは、イノベーション創出強化研究推進事業（開発研究ステージ）において、薬剤抵抗性の発達が早く化学合成殺ダニ剤に依存する防除体系では限界があるハダニ防除について、天敵利用によって化学合成殺ダニ剤の使用を大幅に削減する防除体系を構築しました。すなわち、1)ナシ、施設ミカンなど5作目の果樹園において、果樹園に元から生息する土着天敵の保全と天敵保護資材を用いた天敵製剤の放飼により、殺ダニ剤散布回数を年間1回以内に削減する天敵を主体とするハダニ防除体系を構築し、全国の産地で実証試験を実施しました。2)各種殺虫剤・殺ダニ剤、殺菌剤の土着カブリダニ類とカブリダニ製剤に対する薬剤影響評価リストを作成しました。3)果樹における天敵利用の方法や強化技術の導入、体系化の方法を一般化した実践マニュアルを作成しました。他にも本技術に役立つ技術が開発されています。

- ・農研機構 生研支援センター：冊子「研究紹介 2019」
- ・農研機構ホームページ：新・果樹のハダニ防除マニュアル ―＜w 天敵＞防除体系―  
[https://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130513.html](https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130513.html)

#### ☆水産関係

##### ○高品質の活魚を低コストで安定的に供給するための低塩分畜養方法及び装置の開発

広島県総合技術研究所水産海洋技術センターを中核機関とする研究グループは、イノベーション創出強化研究推進事業（応用研究ステージ）において、高品質の活魚を安定的に供給するために、従来から行われている低塩分蓄養技術を改善しました。すなわち、1)換水にかかる労務コストを削減する経時的塩分制御蓄養法と、それを可能とする換水装置を開発し、また、2)蓄養中に発生する異臭の原因成分を解明し、その抑制方法を開発しました。更に、3)漁獲や流通過程で外傷を負ったマダイの活力を評価できるバイオマーカーを開発しました。これらの技術開発により、活魚流通の拠点において高品質の活魚の出荷調

整が可能となりました。2020年には低塩分蓄養技術を基礎とした効率的な活魚輸送装置および異臭による風味劣化抑制装置のプロトタイプが開発される予定です。

・生研支援センター：冊子「研究紹介 2019」

（なお、生研支援センターの冊子「研究紹介 2019」の内容を知りたい方は、本メルマガ最後尾の「東海生研・お問い合わせ」にご連絡下さい。）

.....

## 編集後記

3月に入り、新型コロナウイルスの感染拡大にともない、多人数が集まるイベント、集会等の中止、小中高校の一斉休業などが行われ、社会的経済的な影響も大きくなっており、また、オリンピック・パラリンピックの開催も懸念されています。迅速で、きめ細かな、可能な限り検査データに基づく科学的な対応・対策によって、1日も早く終息することが求められています。

ところで、最近読んだ本に関西ネットワークシステム編「現場発！産学官民連携の地域力」（学芸出版社、2011年発行）があります。9年前に出版された本ですが、図書館で目に留まり読んでみました。関西ネットワークシステム（KNS）は、岩手大学発の岩手ネットワークシステム（INS）をモデルとして2003年に活動を開始したネットワークで、現在も活動しています。その特徴は、産学官民に属する有志が、所属・肩書などの看板を脱ぎ捨て個人資格で参加する異分野コミュニティであり、顔の見える関係づくりを基に信頼関係を醸成し、自主的・自律的な活動により地域経済の活性化に貢献することを目指しています。定例会、メーリングリスト、分科会である研究会活動などが行われています。INSやKNSが発足した後、その波及効果もあり、全国各地でネットワーク活動が盛んになりました。KNSの目的は、異業種コミュニティを継続させて協働の機運を醸成することであり、プロジェクトや研究開発での成果を直接の目標としているわけではありません。本書では、15に及ぶ各地の特徴あるネットワーク活動が、現場担当者（大学、県、企業関係者等）により報告されており、KNSとの関係についても述べられています。本書から、地域活性化のための活動には異分野コミュニティの存在が重要であることを実感させられるとともに、各地の産学官民連携による熱心な取組も参考となりました。また、産学官民連携による地域活性化には、どの地域にも様々なタイプのネットワークが存在し、情報を共有しながら連携して活動し、成果を生み出していく形が望ましいと思われました。

（松井正春 CD 記）

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====  
特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp （\*を@に書き換えてください）

URL : <http://www.biotech-tokai.jp/>